2027年6月期第1四半期決算説明資料

LiNKX株式会社｜2026年11月13日
証券コード 584A（東証グロース市場）

© 2026 LiNKX, Inc.

FY2026 第1四半期業績ハイライト（2027年6月期）

・売上高は、四半期として過去最高を更新し、ハイエンド・エンジニア数も計画より微増で着地
・前年同期と比べて、採用費・オフィス賃料等の販管費率の上昇によって営業利益率は減少

2027年6月期 第1四半期実績

売上高	営業利益	営業利益率
601百万円	136百万円	22.7%
前年同期比+43.6%	前年同期比 +32.2%	前年同期比 △2.0pt

主要KPI

ハイエンド・エンジニア数※1	1名あたり年間換算売上高※2
110名	2,259万円/年
前年同期比+31名	前年同期比＋40万円/年

※1：クラウドネイティブで世界標準のシステム設計が行える技術とAIを高次元で活用できる技術を有するエンジニアと、システムモダナイゼーションのプロジェクトマネジメントやDXコンサルティングを行うプロジェクトマネージャーで、当社独自のコーディングテスト等による厳格な採用選考を通過した顧客プロジェクトにアサインされる稼働対象人員の人数
※2：１名あたり年間換算売上高＝当社の当該事業年度四半期売上高÷期中平均ハイエンド・エンジニア数（※3）を4で乗じて年間の売上高に換算した数値
※3：前四半期末と当四半期末におけるハイエンド・エンジニア数を合計して２で除した数値
※4：前年同期（2026年6月期第1四半期）の決算数値は、監査法人による監査及びレビューを受けていない

© 2026 LiNKX, Inc.

LiNKX

1. 事業概要 P 04

2. 事業ハイライト P 21

3. FY2026 第1四半期業績 P 29

4. APPENDIX P 35

© 2026 LiNKX, Inc.

LiNKX

1. 事業概要 P 04

2. 事業ハイライト P 21

3. FY2026 第1四半期業績 P 29

4. APPENDIX P 35

© 2026 LiNKX, Inc.

日本のミッション・クリティカル・システムが直面している課題

LiNKX

当社の人材と技術が架け橋となり、ミッション・クリティカル・システムのモダナイゼーションを推進する



レガシーシステムのモダナイゼーションにおける課題			
システム老朽化	技術者不足	新技術との連携困難	維持コストの高騰

© 2026 LiNKX, Inc.

当社が提供する価値

高度な技術を活用したシステムモダナイゼーションによって、日本企業の“変化への適用力”を強化する

Cloud&AI ベース
モダナイゼーション

- クラウドネイティブで
  セキュアなシステム開発
- AI時代を見据えた
  データ基盤の構築
- AI技術を活用したコードの
  自動変換・テスト工程自動化

LiNKX
が提供する価値

レガシーシステムを
大量に保有する日本企業

変化への適用力
を強化する



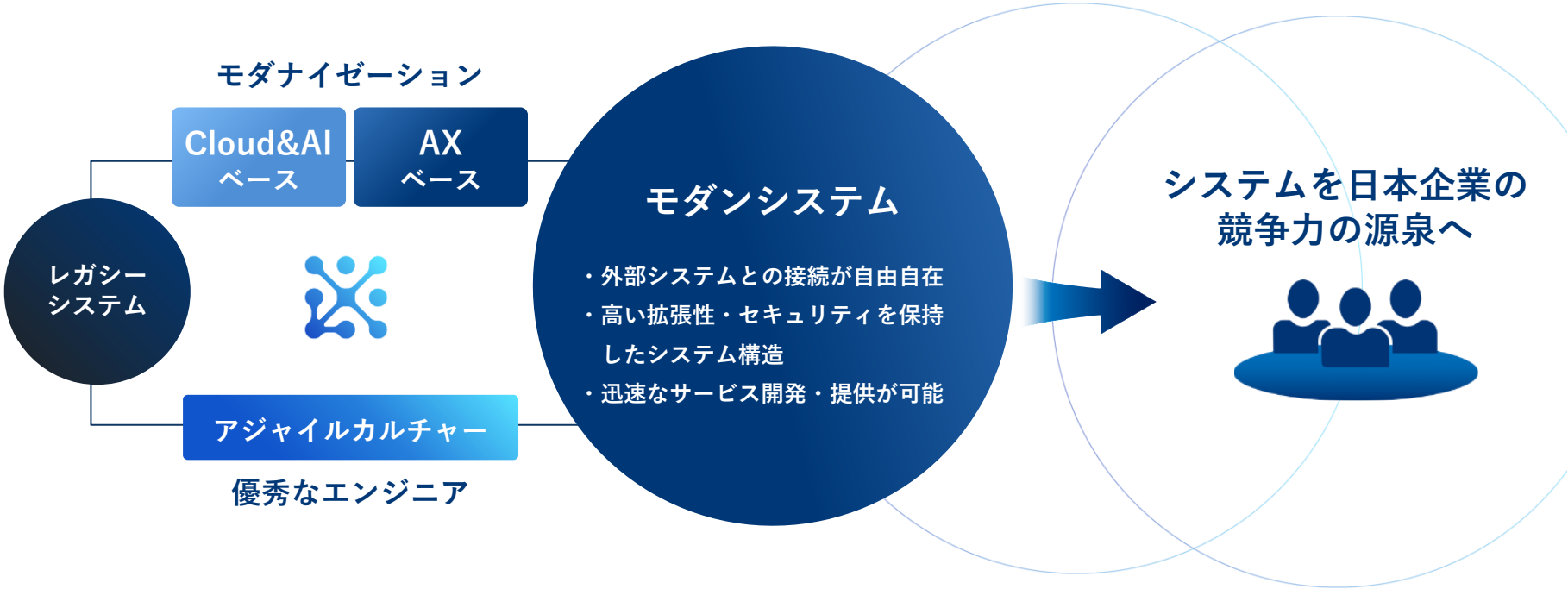
AX ベース
モダナイゼーション

- 「AXcelerator」を活用した
  レガシーシステムのモダン化
- 現行システム可視化
  （現行ソースコードの分析）
- 設計書及びソースコードの
  自動生成・検証

© 2026 LiNKX, Inc.

わたしたちが目指していること

テクノロジーの力で、ミッション・クリティカル・システムのモダナイズを実現し、日本企業の競争力を高める



© 2026 LiNKX, Inc.

Vision・Mission・Value

Vision

テクノロジーで、高度生産性社会のその先へ

Mission

エンジニアリングの力で、
ミッション・クリティカル・システムをモダン化する

Value

プロフェッショナリズム
全ての観点において「プロ」であること

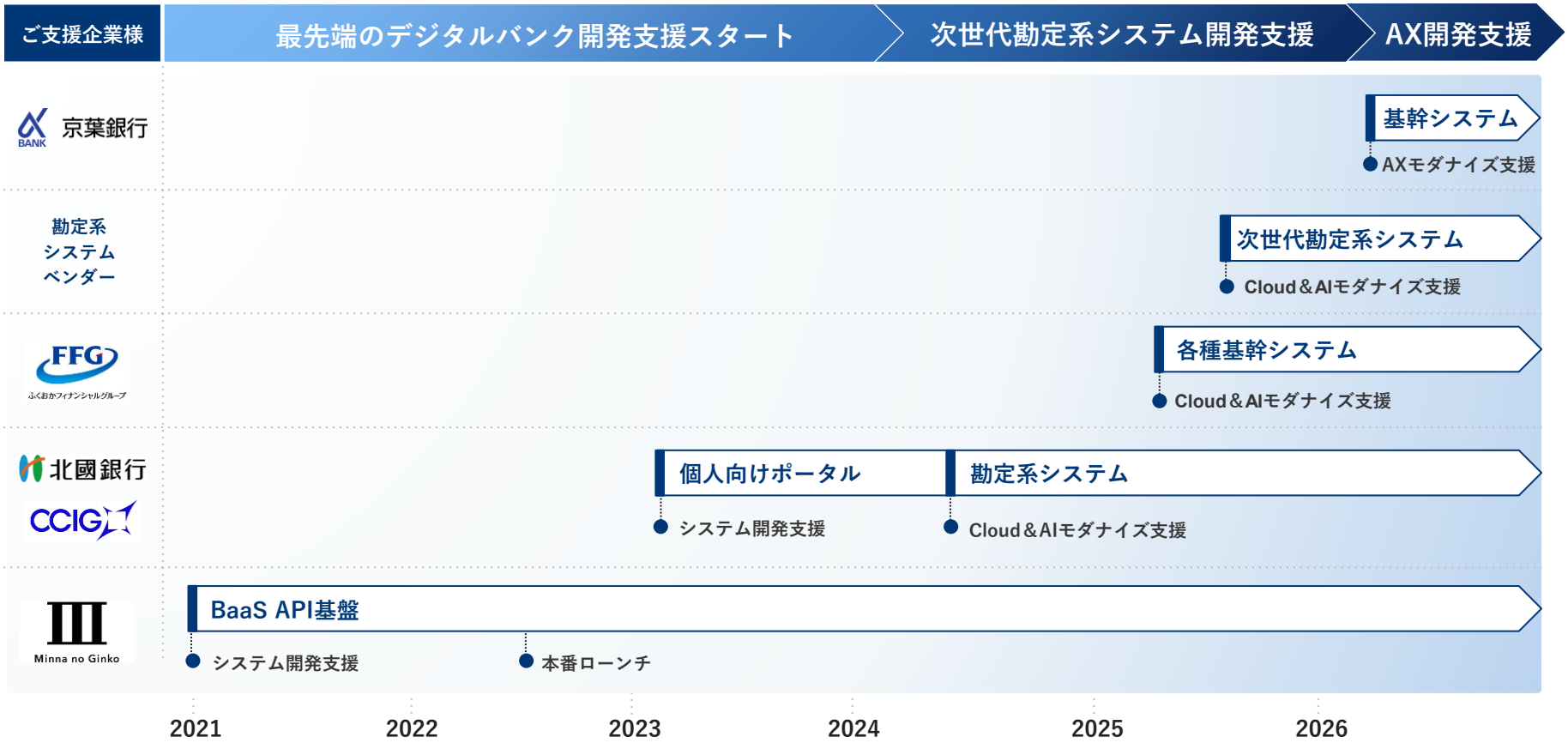
チームワーク
偉大な仕事はチームによってのみ成し遂げられること

共 感
他者の課題に寄り添い助けること

挑 戦
常に挑戦しつづけ、そしてやり抜くこと

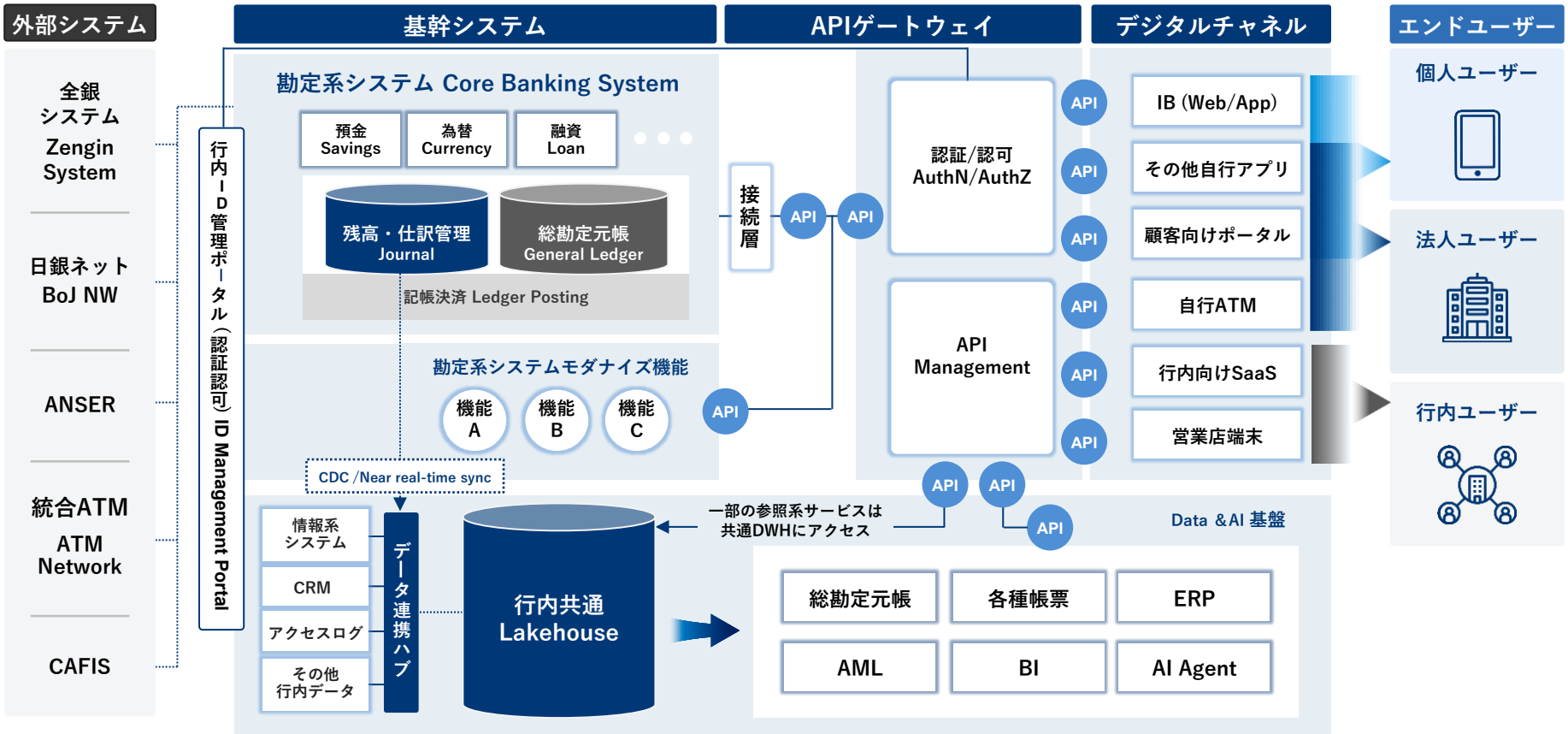
© 2026 LiNKX, Inc.

金融業界における当社システム開発支援の変遷 ーどのように参入・戦線拡大を進めたのかー



© 2026 LiNKX, Inc.

LiNKXのストロングポジション　ー難易度の高いエンジニアリングー



© 2026 LiNKX, Inc.

LiNKXのストロングポジション　ー難易度の高いエンジニアリングー

LiNKX

外部システム

- 全銀システム Zengin System
- 日銀ネット BoJ NW
- ANSER
- 統合ATM ATM Network
- CAFIS

行内ID管理ポータル（認証認可）ID Management Portal

基幹システム

03 勘定系システム（コアバンキングシステム）

- アーキテクチャの検討
- 重要機能（センターカット等）開発
- 単一機能のモジュール化
- COBOLからJavaへの変換

AX ベース モダナイゼーション

AXcelerator を活用した開発工程

現行分析/影響調査/設計書生成/要件再定義/開発/テスト/保守等

APIゲートウェイ

01 APIゲートウェイシステム（外部システム連携）

- 外部システム接続機能
- 認証・認可機能
- 接続管理機能

デジタルチャネル

00 チャネル系システム

- インターネットバンキング
- 決済アプリ
- お客さま窓口機能

02 データ基盤システム（統合データ基盤）

データ基盤の整備・統合

- データ分析システム等の導入
- AIによるデータの活用

エンドユーザー

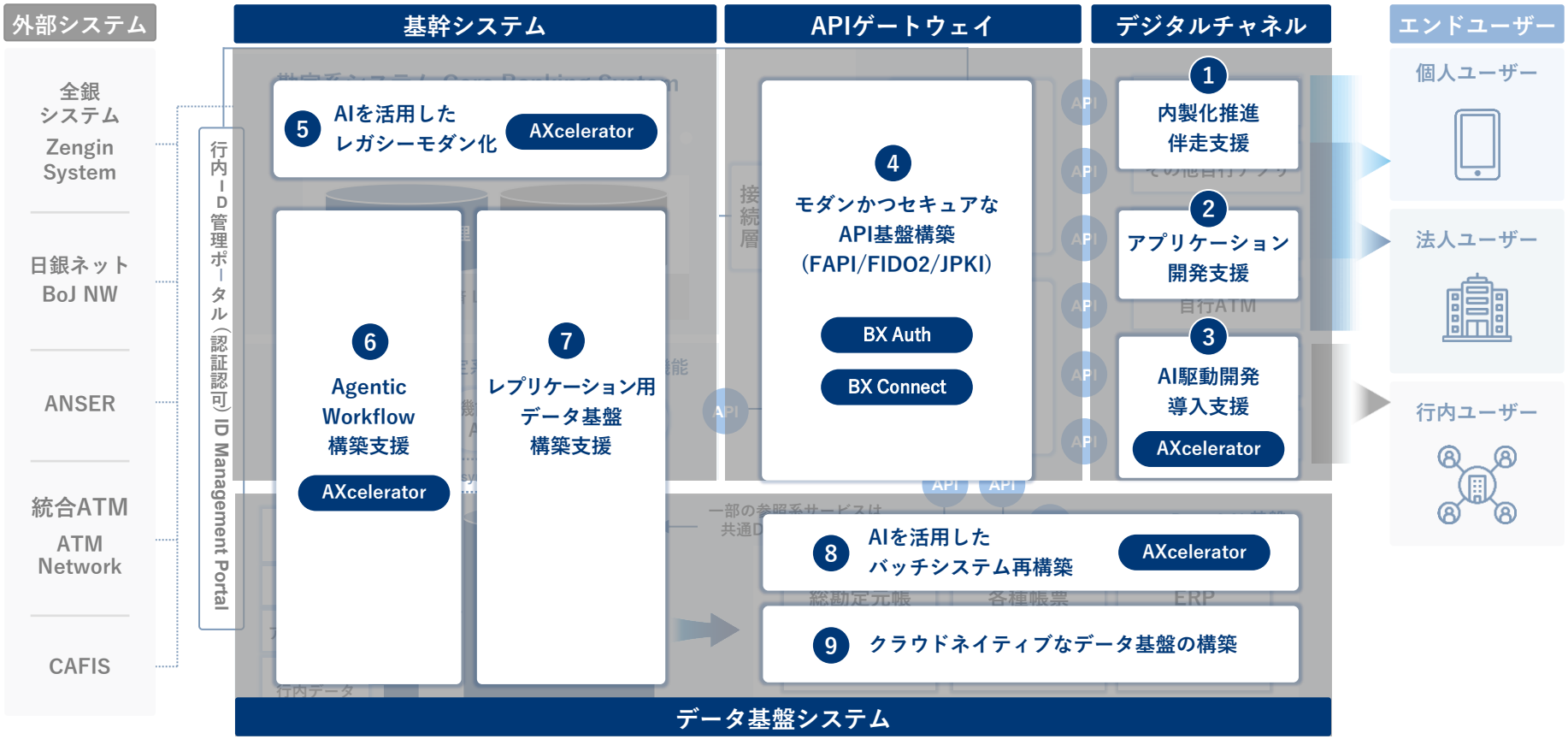
- 個人ユーザー
- 法人ユーザー
- 行内ユーザー

戦略的エントリーポイント

戦略的重点領域

© 2026 LiNKX, Inc.

LiNKXのストロングポジション　ー領域別の提供サービスー



© 2026 LiNKX, Inc.

ビジネスモデル（全体像）

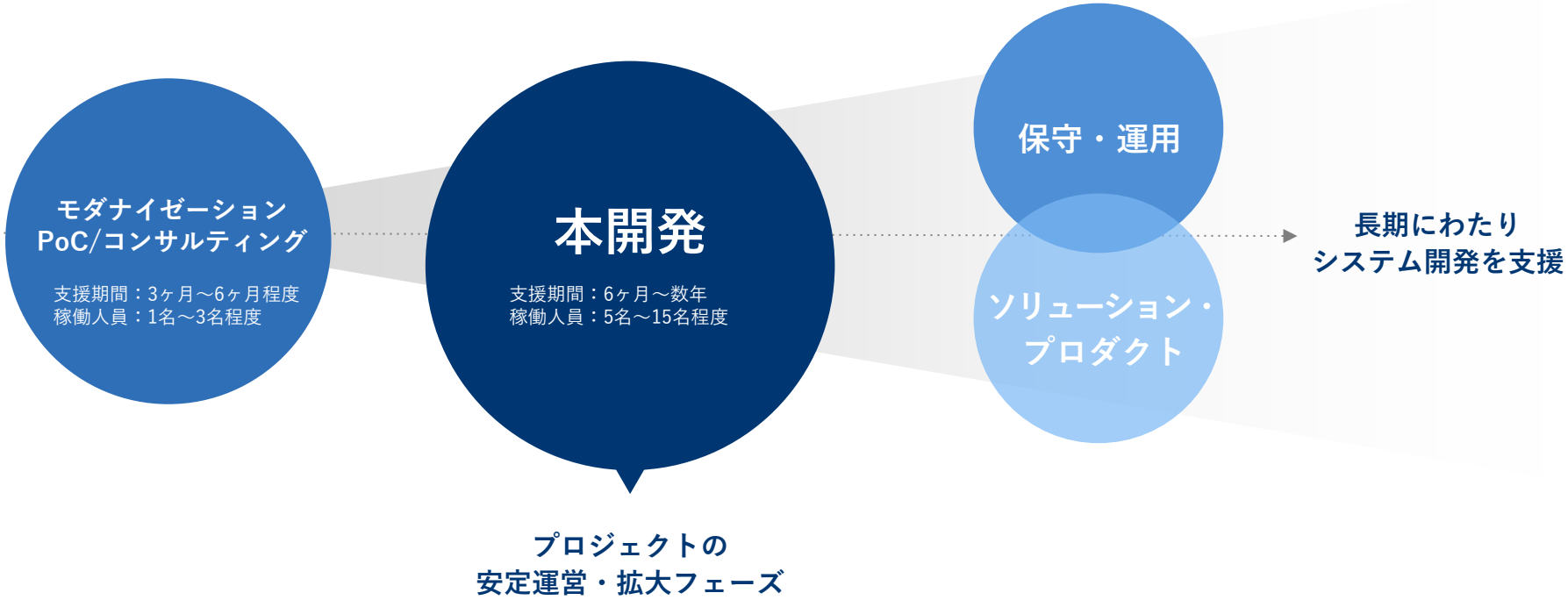
・システムモダナイゼーション事業における収益は、フロー型収入とストック型収入から構成されている
・PoC/コンサルティングを経て本開発を行い、開発したシステムの保守・運用まで担うことで、長期的に顧客を支援
・個別プロジェクトで培った技術アセットを、自社ソリューションとしてサービスを提供



© 2026 LiNKX, Inc.

ビジネスモデル（事業プロセス）

・当社システムモダナイゼーション事業における事業プロセスは以下のとおり
・PoC/コンサルティングフェーズを経て、本開発フェーズへと移行し、その後、開発支援したシステムの保守・運用を行い、長期にわたって顧客のシステム開発を支援

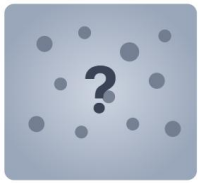


© 2026 LiNKX, Inc.

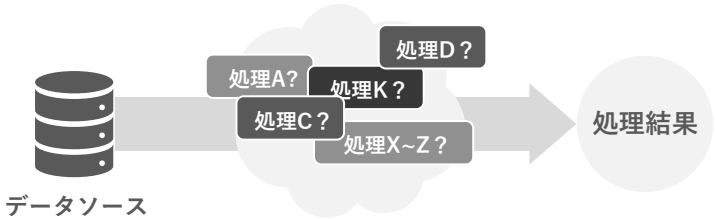
AIソリューション「AXcelerator」の概要

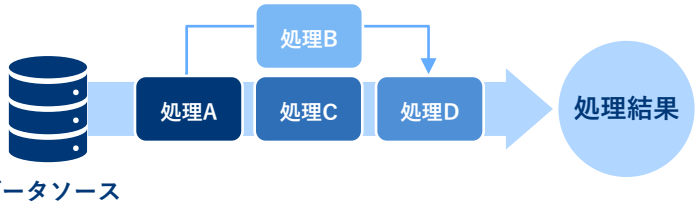
- 2026年6月期から、AIソリューション「AXcelerator」の有償での提供を開始
- 「AXcelerator」の活用によってブラックボックス化したレガシーシステムの構造を短時間で可視化

	可視化前	可視化後
システムの内部構造	誰もファイル同士の関係を把握できていない	複数の処理同士の類似性・到達性を可視化
処理の流れ	複数の処理の流れが不明	複雑な処理の流れを把握可能









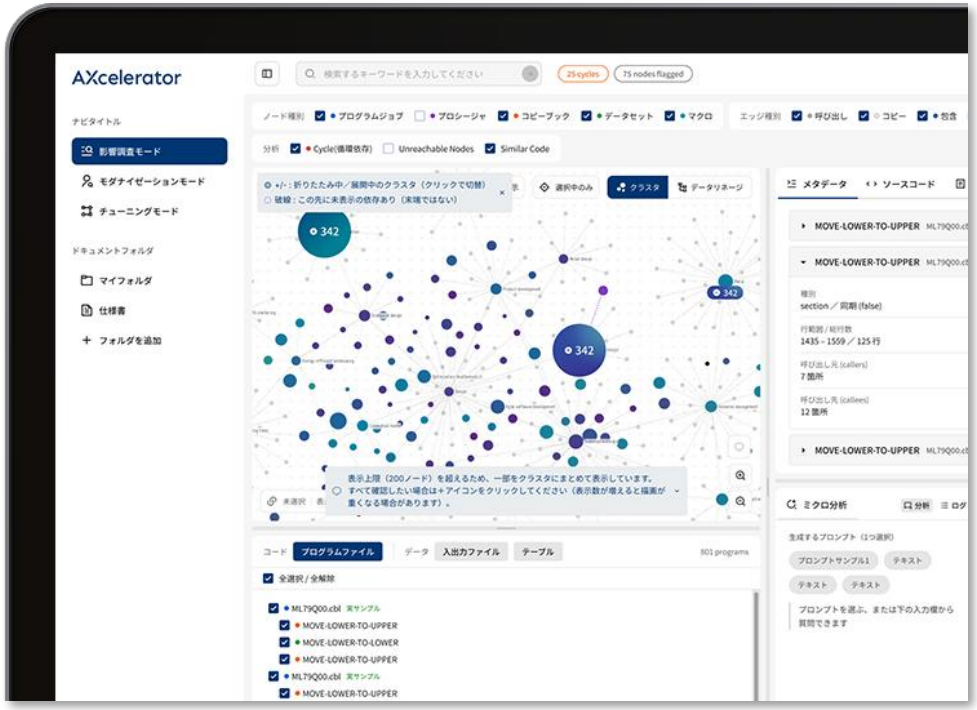
© 2026 LiNKX, Inc.

AIソリューション「AXcelerator」

当社が独自に培ったAI技術を活用し、影響範囲の見えない複雑なシステムの可視化を行い、システム改変における影響調査や段階的なモダナイズの実行をサポート

AXcelerator

1. **理解する**
   システム構造と依存関係を可視化し、影響範囲を把握
2. **戦略を立てる**
   解析結果をもとに、最適な移行・モダナイズ戦略を策定
3. **移行・再構築する**
   AI駆動開発により、コードの移行・再構築を効率化
4. **品質を担保する**
   テストシナリオ・データを自動生成し、品質を検証



※2026年11月13日時点の開発画面のイメージ・機能であり、今後の機能追加等によって変更となる場合があります。

© 2026 LiNKX, Inc.

AIソリューション「AXcelerator」の主な機能

システムの可視化・分析から、移行戦略の策定、システム・コードの再構築、テスト生成まで、システムのモダン化の各工程を支える独自機能を提供

①理解する

可視化する

コールグラフ表示、到達可能性・デッドコード分析でコードの全体像と依存関係を把握

設計書を起こす

COBOL、PL/I、アセンブラ、Java 等から基本・詳細設計書を自動生成

影響調査する

改修対象の上流・下流への波及範囲をAIで分析

②戦略を立てる

モダナイゼーション戦略立案

ソースコード全体を解析し、サービス分割方針と移行戦略レポートを生成

リファクタリング・スリム化

コード全体を解析して類似コードを検出し、共通化を提案

デッドコード検出でシステム最適化

言語バージョンアップ

長年利用しEOLを迎えたシステムのバージョンアップを提案

③移行・再構築する

AI駆動によるリビルド

「①理解する」で出力した仕様を起点に、新環境向けコードを段階的に再構築

リライトツール

COBOL→Javaへ、ルールベースの自動変換

ユニット・テスト自動生成

JUnit + Mockito による
自動テストコードを自動生成
（C1カバレッジ80%以上達成）

④品質を担保する

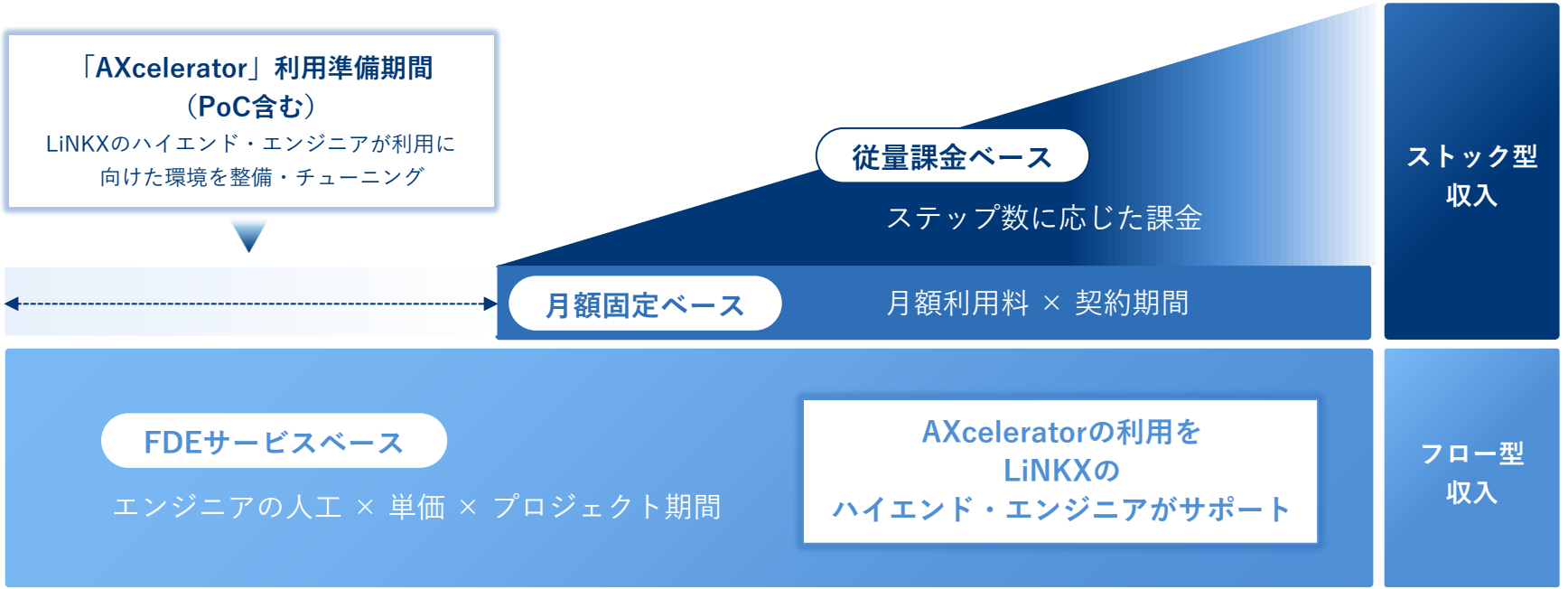
テストシナリオ・データ生成

処理分岐を網羅したホワイトボックステストや仕様から起こすブラックボックステストのシナリオ生成。
シナリオごとの電文データ・テーブルデータも自動生成

© 2026 LiNKX, Inc.

AXベースモダナイゼーションのプロジェクト構造イメージ

・自社ソリューション「AXcelerator」を活用したAXベースモダナイゼーションは、ハイエンド・エンジニアによるFDEサービスベースとソリューション利用ベースの課金体系を想定
・ソリューション利用ベースは、月額利用料とモダナイゼーションのステップ数に応じた従量課金体系を設定



© 2026 LiNKX, Inc.

「AXcelerator」の成長加速に向けた取組み

「AXcelerator」の成長加速に向けて、FY2026（2027年6月期）は以下のテーマを優先的に取組む

「AXcelerator」の成長加速に向けた重点テーマ

PoC案件の積み上げ及び本開発案件の拡大

- 新規PoC案件の積み上げによるAXcelerator利用機会の向上
- PoCから本開発へのフェーズ移行による本開発案件の獲得増加

パートナー経由の販売体制・オペレーション確立

- 既存SIer等とのパートナーシップを通じたAXcelerator提供の開始
- AXceleratorの販売・サポート体制の整備及び料金体系の確立

プロダクト力の強化

- 顧客フィードバックに基づく必要機能等の追加及びUI/UXの改善
- プロジェクト実績の蓄積による品質向上と領域拡大

パートナー（既存SIer等）

顧客（銀行・保険・その他業種）

© 2026 LiNKX, Inc.

AI技術の進化は、LiNKXにとって最大の「チャンス」
システムモダナイゼーションの"追い風"へ

1．AIの進化がもたらすモダナイゼーションの実現

AI技術の進化は、人間では不可能であった「老朽化したシステム」の
モダナイゼーションという巨大マーケットの扉を開いた

2．AIツールの限界と「ラストワンマイル」の重要性

AI技術（ツール）のみでは、エンジニアリングの品質は上がらず、
最終的な品質担保には、ハイエンド・エンジニアによるAI活用が必要不可欠

3．LiNKXのハイエンド・エンジニアによる「AI活用の最大化」

当社ハイエンド・エンジニアがAIを活用し、現状システムの可視化や、自動化プロセスを
設計することで、パフォーマンスを桁違いに高め、顧客に高い付加価値を提供可能

© 2026 LiNKX, Inc.

LiNKX

1. 事業概要 P 04

2. 事業ハイライト P 21

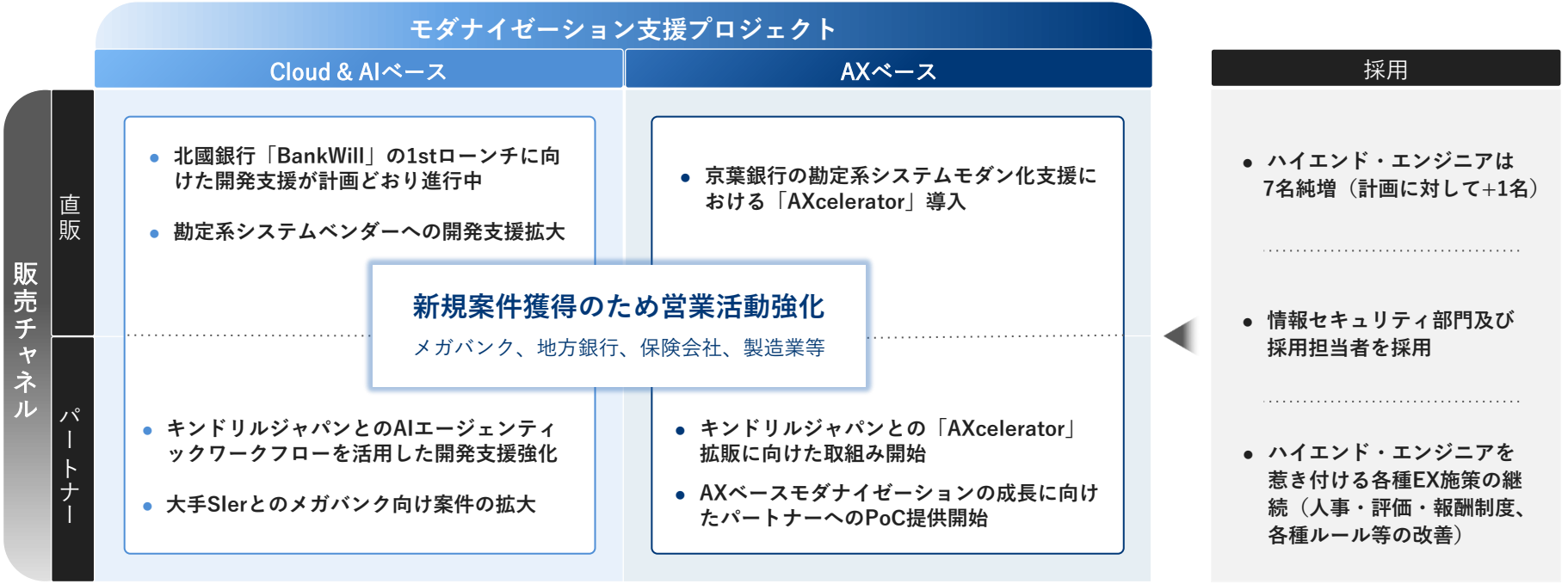
3. FY2026 第1四半期業績 P 29

4. APPENDIX P 35

© 2026 LiNKX, Inc.

FY2026 第1四半期事業ハイライト（2027年6月期）

・北國銀行「BankWill」1stローンチ（2027年1月予定）に向けて、プロジェクトは計画どおりに進行
・キンドリルジャパンとエージェンティックAIの活用及び「AXcelerator」拡販の取組みを強化
・京葉銀行プロジェクトにおいて、自社ソリューション「AXcelerator」を活用したモダナイゼーション支援を受注



© 2026 LiNKX, Inc.

Cloud＆AIベースモダナイゼーションの進捗状況

直販

CCIグループ（北國銀行）との取組み

- 2027年1月の「BankWill」 1stローンチに向けた対応にリソースを集中
- 2028年1月の「BankWill」 2ndローンチに向けた開発支援も本格化
- 同グループの戦略に合わせて「BankWill」の他行展開支援へ領域をシフト（予定）

その他直販による取組み

- デジタルバンク向け勘定系システム開発支援の提案
- 地方銀行向けBaaS基盤開発支援の提案
- 地方銀行向けAPI基盤構築支援の提案
- 地方銀行向けデータ基盤モダナイゼーション支援の提案

パートナー

キンドリルジャパンとの取組み

- 保険会社向けの提案活動を強化
- 製造業向けのエージェンティックAI活用支援の強化

その他パートナーとの取組み

- メガバンク向けインターネットバンキングシステム開発支援の強化
- 勘定系システムベンダー向け次世代勘定系システム開発支援の本格化

© 2026 LiNKX, Inc.

AXベースモダナイゼーションの進捗状況

京葉銀行におけるシステムモダナイゼーションの本開発案件を初受注（2026年8月開始）

「AXcelerator」導入の概要

・システムの日常的な保守・運用業務の効率化と将来のシステム刷新に向けた準備として「AXcelerator」を導入
・人手であれば膨大な時間や開発リソースを要する基幹システムの設計書を飛躍的なスピードで自動生成し、
ソースコード改修時に自動検知して更新し続けることで、常に最新の“生きた設計書”として維持



実施内容：ブラックボックス解消と「生きた設計書」の構築

① 詳細設計書の自動生成
長年の改修で複雑化した大規模ソースコードをAI解析し、詳細設計書を自動生成

② 常時最新化（生きた設計書）
コード改修の差分を自動検知・同期し、仕様ドキュメントの陳腐化を恒久的に防止

③ 保守効率化・刷新基盤化
属人化を排除し保守コストを抑制。将来の大規模刷新へ向けた強固な基盤を整備

※2026年9月15日付け「当社プレスリリース」より要約

© 2026 LiNKX, Inc.

キンドリルジャパンとのAIパートナーシップの進捗状況

・2026年5月に締結したAIパートナーシップに基づく、キンドリルジャパン社との協業が進行中
・「AXcelerator」の拡販とエージェンティックAI活用支援の2本の柱でビジネスの拡大を目指す
・銀行以外の金融機関（保険会社）や、製造業への提案活動を実施

「AXcelerator」の提供開始に向けた顧客への提案活動の実施

- 顧客提案に向け、キンドリル社の営業・プリセールス部隊に対する「AXcelerator」の紹介を実施
- 販売体制・契約内容等のプロセスを整備し、拡販に向けスキームを構築
- 保険会社・製造業をはじめとする基幹システムの解析から移行設計までの共同提案を実施

現場知見を活用した「エージェンティックAI」活用支援

- 共同で製造業向けのAI活用支援プロジェクトを実施（人とAIをともに育てられる体制を構築）
- システム定義書、運用手順書、過去の変更履歴、熟練現場知見をAIエージェントの知識として集約
- 業務システムを皮切りに、ITライフサイクル全体へのエージェンティックAI拡張を見据えた支援を実施

© 2026 LiNKX, Inc.

FIT2026（金融国際情報技術展）にて4つのセミナーを開催

2025年に引き続きFIT展（2026年10月16日開催）で、当社顧客及びパートナーをお招きし、当社重要プロジェクトにおけるAI活用をはじめとした取組みを紹介する計4セミナーを開催



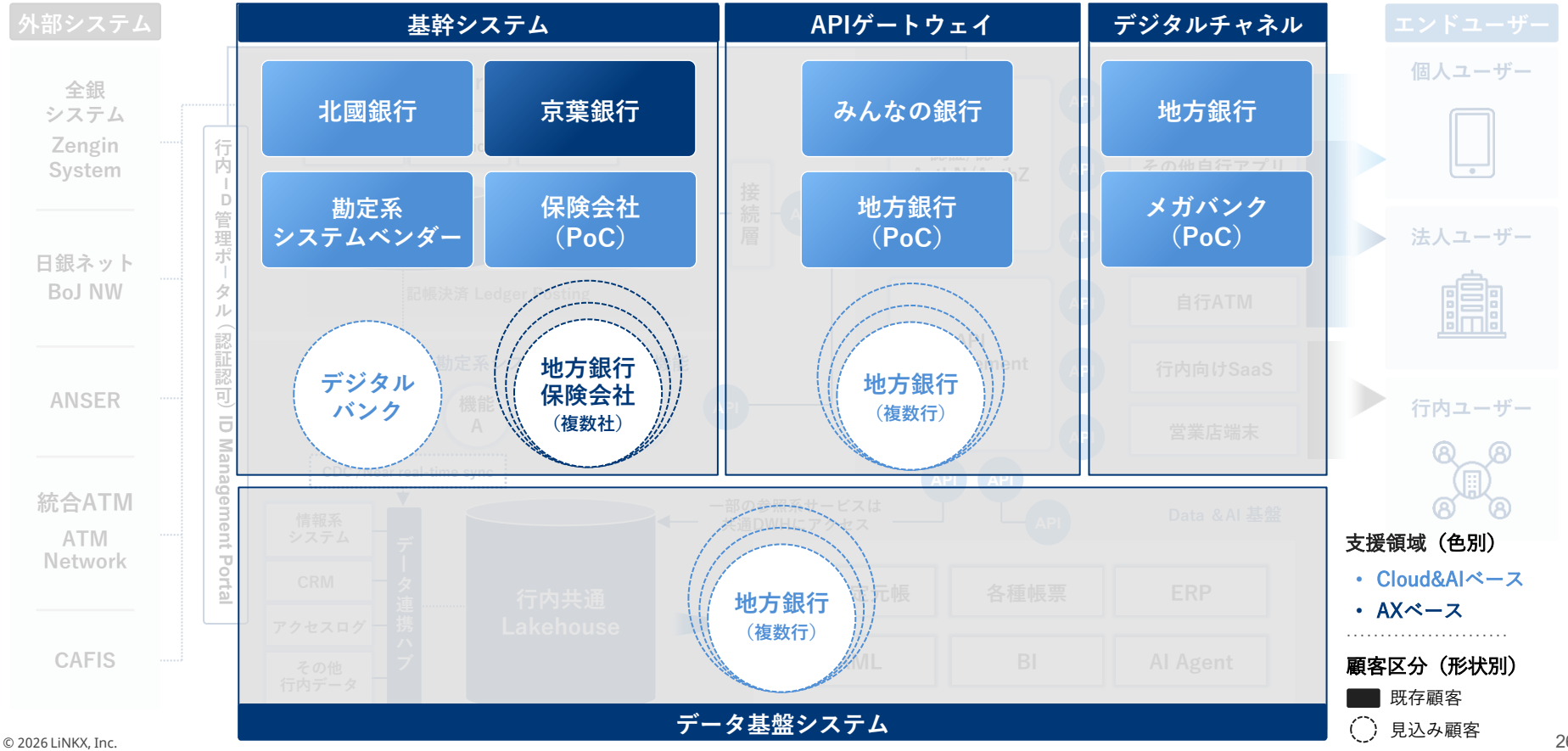






© 2026 LiNKX, Inc.

LiNKXのシステム開発支援領域 ー主な既存顧客・見込客パイプラインー



支援領域（色別）
- Cloud&AIベース
- AXベース

顧客区分（形状別）
- 既存顧客
- 見込み顧客

© 2026 LiNKX, Inc.

AXモダナイゼーションの受注状況

・2027年6月期第1四半期は、本開発レベルの案件1件、PoCレベルの案件1件を受注
・年間3件の本開発レベルの案件受注を目指して、AXモダナイゼーションの提案活動を継続中

AXモダナイゼーション案件数											
ステップ数※1	システム規模イメージ※2	2026年6月期（実績）					2027年6月期（括弧内は計画対比）				
		Q1	Q2	Q3	Q4	計	Q1 実績	Q2 計画	Q3 計画	Q4 計画	計
50,000,000超	大企業グループ全体のシステム本開発案件レベル	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0
～50,000,000	大企業の全システム本開発案件レベル	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0
～10,000,000	基幹系システム等の大規模システムの本開発レベル	-	-	-	-	0	1 (±0)	-	1	1	3
～ 3,000,000	小規模システムの本開発、または大規模システムにおけるPoCレベル	-	-	2	1	3	1 (+1)	-	-	-	1

※1：レガシーシステムのモダナイゼーションにおける開発工程におけるコードのステップ数
※2：一般化するための当社区分による規模のイメージであり、実際のシステム規模は個別の企業・システムごとに異なる

© 2026 LiNKX, Inc.



1. 事業概要 P 04

2. 事業ハイライト P 21

3. FY2026 第1四半期業績 P 29

4. APPENDIX P 35

© 2026 LiNKX, Inc.

FY2026 第1四半期業績サマリー（2027年6月期）

・2027年6月期第1四半期は、売上高・営業利益ともに、計画を若干上回って着地
・採用費・オフィス賃料等が増加したことに伴い、前年同期と比べて、営業利益率は減少

（単位：百万円）	2027年6月期 第1四半期		前年同期比	2026年6月期 第1四半期 ※	
	実績	売上高比率		実績	売上高比率
売上高	601	100.0%	+43.6%	418	100.0%
売上原価	291	48.4%	+32.9%	219	52.4%
売上総利益	310	51.6%	+55.4%	199	47.6%
販売費及び一般管理費	173	28.8%	+80.3%	96	23.0%
営業利益	136	22.7%	+32.2%	103	24.7%
営業外収益	1	0.2%	+21,238,240%	0	0.0%
営業外費用	1	0.2%	+1,106%	0	0.0%
経常利益	136	22.7%	+32.0%	103	24.7%
当期純利益	93	15.5%	+44.5%	64	15.4%

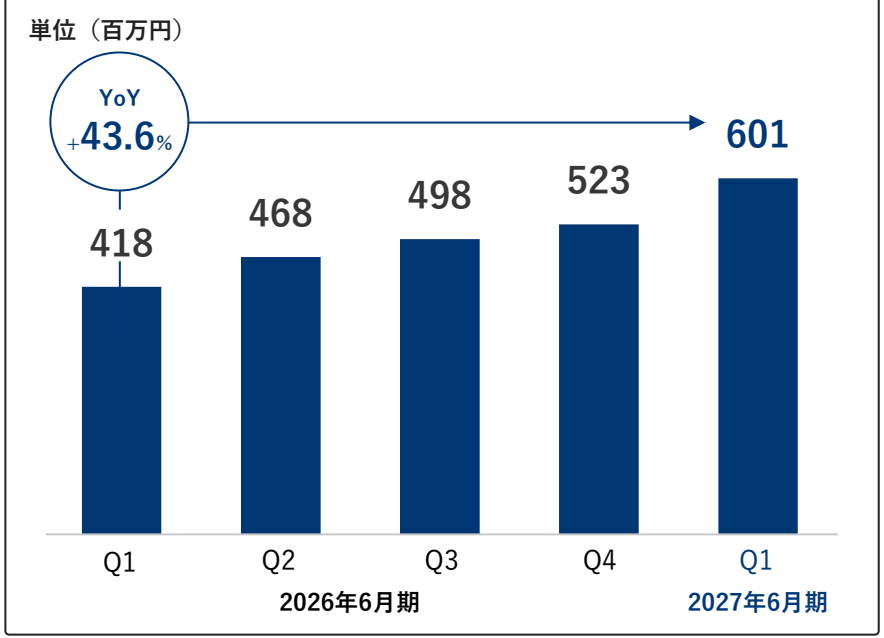
※前年同期（2026年6月期第1四半期）の実績数値は、監査法人による監査及びレビューを受けていない

© 2026 LiNKX, Inc.

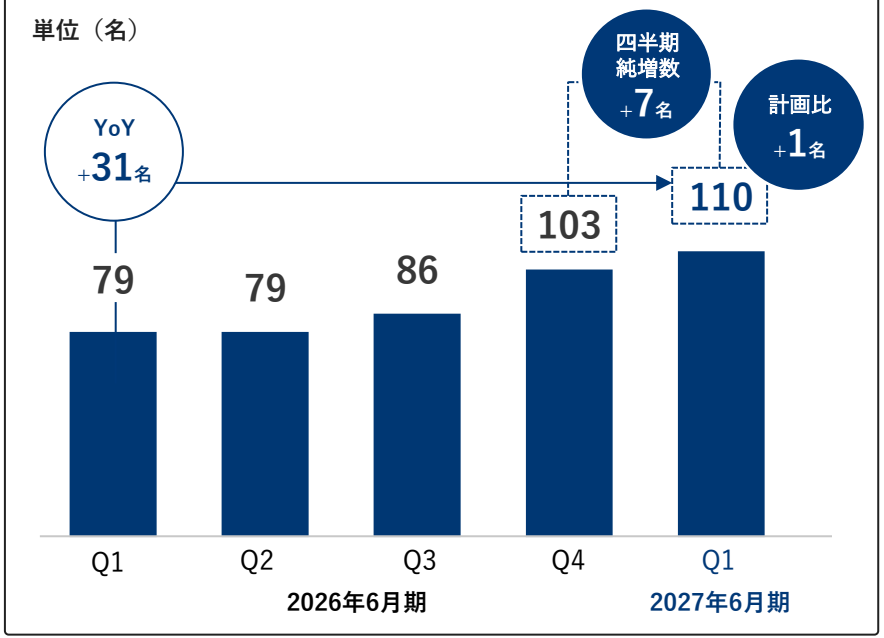
四半期推移（売上高・ハイエンド・エンジニア数）

・ハイエンド・エンジニア数の増加に伴い、四半期ごとの売上高も堅調に推移
・ハイエンド・エンジニア数は、前四半期末対比で7名増加し、人員計画に対して概ね計画どおりに推移

売上高



ハイエンド・エンジニア数※



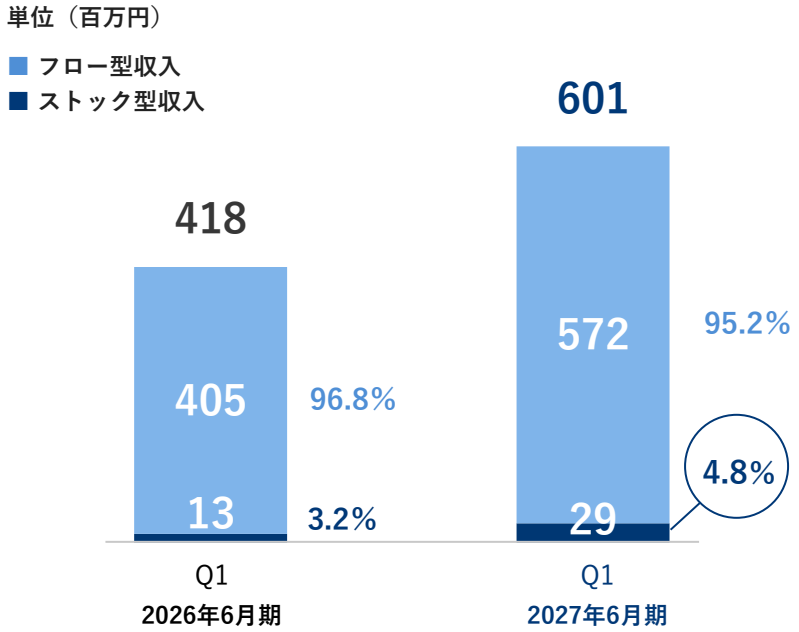
※：クラウドネイティブで世界標準のシステム設計が行える技術とAIを高次元で活用できる技術を有するエンジニアと、システムモダナイゼーションのプロジェクトマネジメントやDXコンサルティングを行うプロジェクトマネージャーで、当社独自のコーディングテスト等による厳格な採用選考を通過した顧客プロジェクトにアサインされる稼働対象人員の人数

© 2026 LiNKX, Inc.

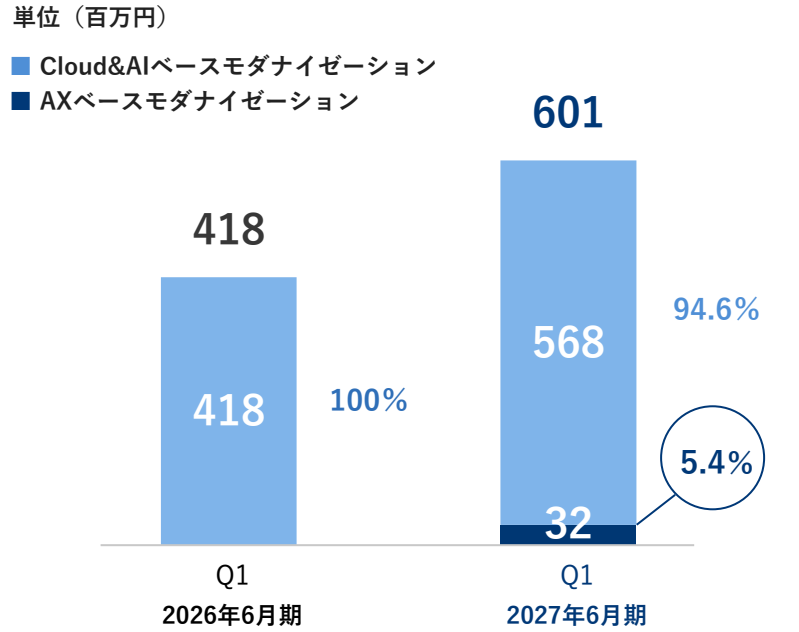
FY2026 第1四半期タイプ別売上高推移（2027年6月期）

・自社ソリューション「AXcelerator」と保守運用等の増加により、ストック型収入の売上高比率が増加
・「AXcelerator」の立ち上げにより、AXベースモダナイゼーションの売上高が増加

収入タイプ別 売上高



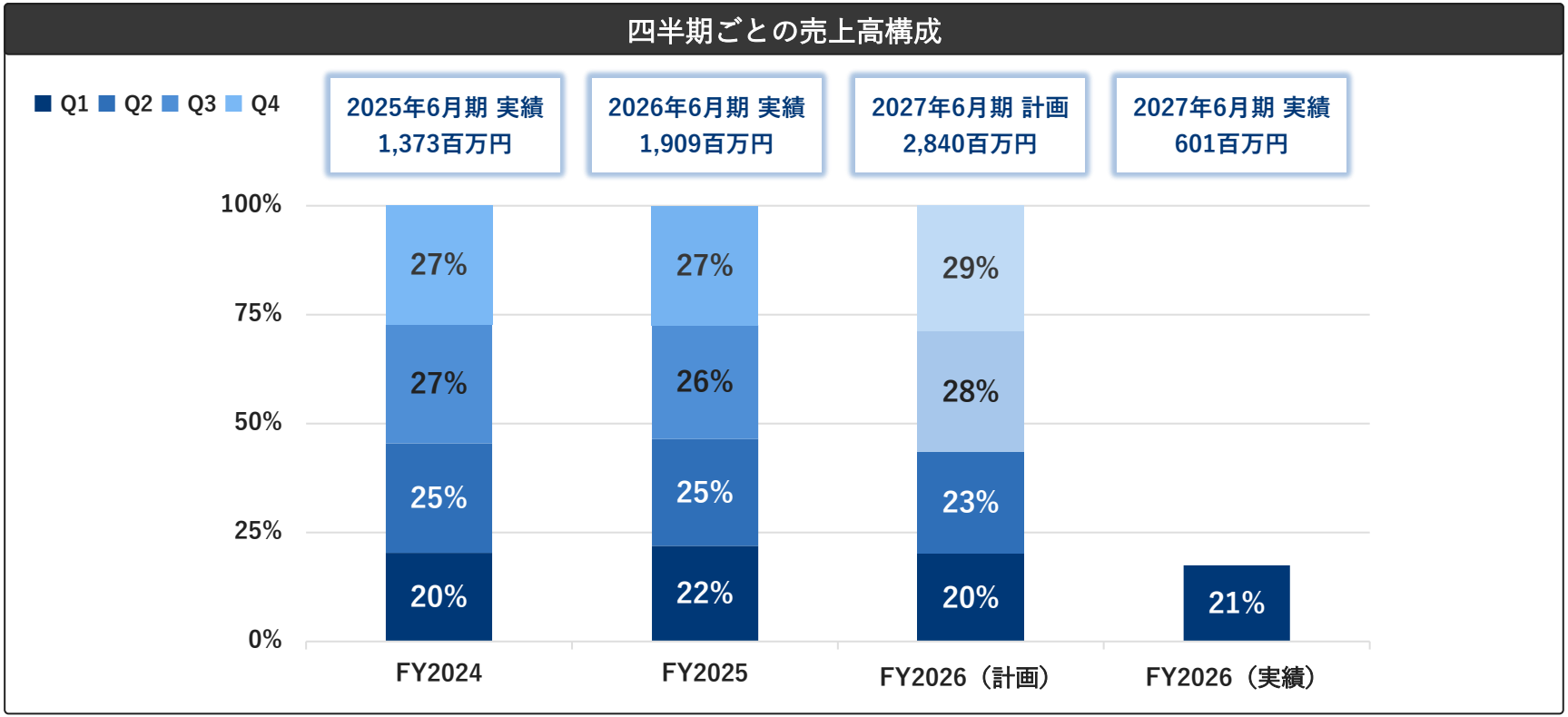
モダナイゼーションタイプ別 売上高



© 2026 LiNKX, Inc.

FY2026 売上高の進捗状況（2027年6月期）

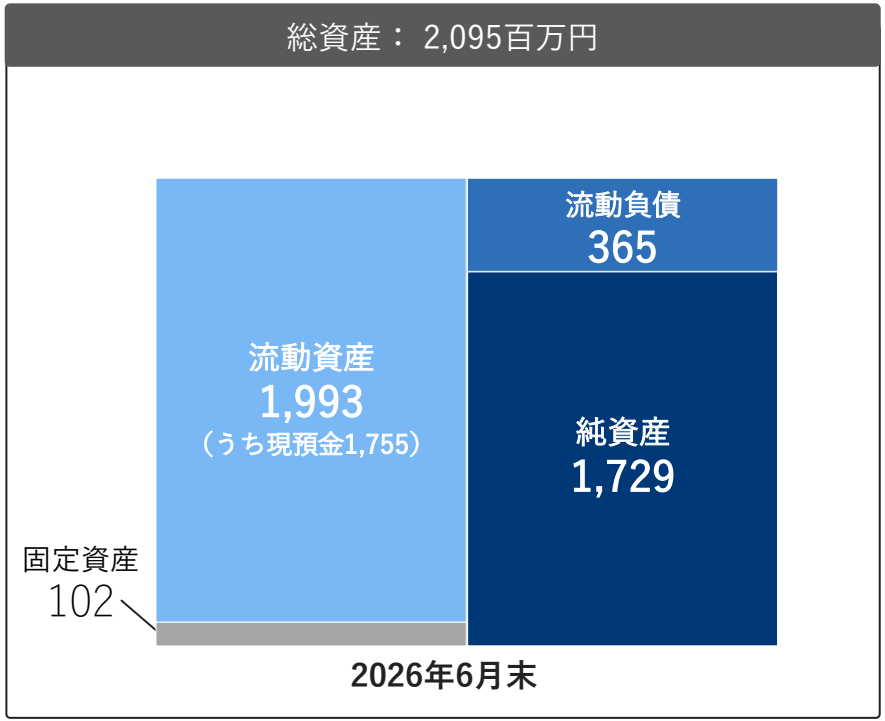
2027年6月期第1四半期は、計画を若干上振れして着地しており、概ね例年どおりの進捗率で推移

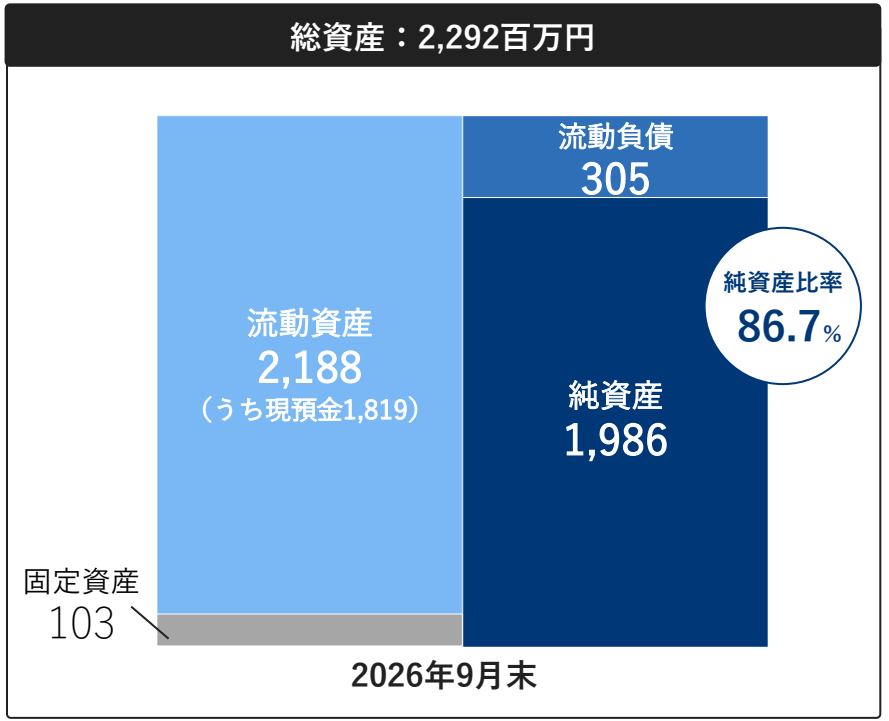


© 2026 LiNKX, Inc.

FY2026 第1四半期バランスシートの状況（2027年6月期）

・オーバーアロットメントによる売出しに関連して、2026年7月に第三者割当増資（159百万円）を実行
・引き続き強固な財務基盤を有する（純資産比率：86.7%）





© 2026 LiNKX, Inc.

1. 事業概要 P 04
2. 事業ハイライト P 21
3. FY2026 第1四半期業績 P 29
4. APPENDIX P 35

© 2026 LiNKX, Inc.

FY2026 通期業績予想ハイライト（2027年6月期）

・2027年6月期（通期業績予想）の売上高は前期比+48.7%、営業利益は+56.8%と、引き続き高い成長を見込む
・ハイエンド・エンジニア数は前期末比+33名、１名あたり年間平均売上高は前期比+125万円の増加を計画

2027年6月期 通期業績予想

売上高	営業利益	営業利益率
2,840百万円	715百万円	25.2%
前期比+48.7％	前期比 +56.8％	前期比 +1.3pt

主要KPI

ハイエンド・エンジニア数※1	１名あたり年間平均売上高※2
136名	2,430万円/年
前期末比+33名	前期比＋125万円/年

※1：クラウドネイティブで世界標準のシステム設計が行える技術とAIを高次元で活用できる技術を有するエンジニアと、システムモダナイゼーションのプロジェクトマネジメントやDXコンサルティングを行うプロジェクトマネージャーで、当社独自のコーディングテスト等による厳格な採用選考を通過した顧客プロジェクトにアサインされる稼働対象人員の人数
※2：１名あたり年間平均売上高＝当社年間売上高÷期中平均ハイエンド・エンジニア数（※3）
※3：前四半期末と四半期末におけるハイエンド・エンジニア数を合計して２で除した数値を、当該事業年度における４四半期分を合計して４で除した数値

© 2026 LiNKX, Inc.

FY2026 通期業績予想サマリー（2027年6月期）

2027年6月期は、引き続き高い売上高の成長を見込み、上場準備に伴うコーポレート部門増強等の費用増加が一巡するため、営業利益・経常利益・当期純利益についても増加する見込み

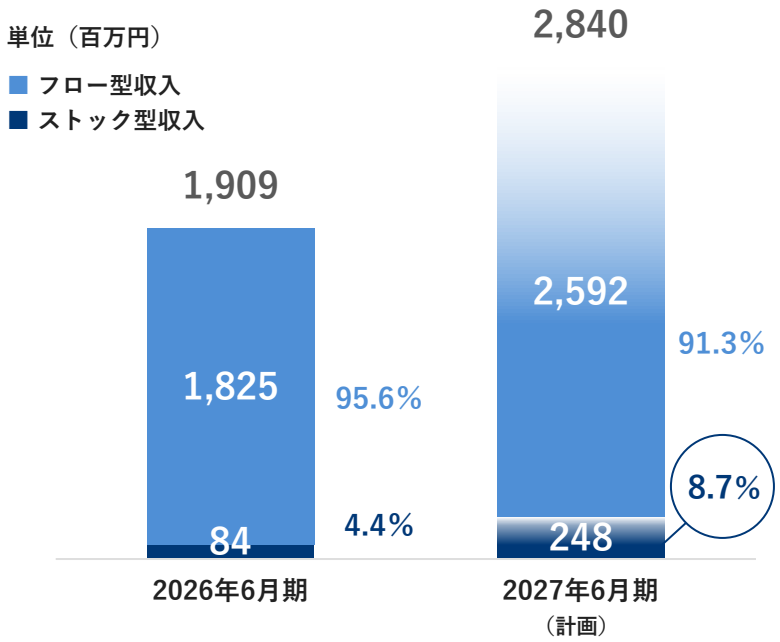
（単位：百万円）	2027年6月期		前期比	2026年6月期	
	業績予想	売上高比率		実績	売上高比率
売上高	2,840	100.0%	+48.7%	1,909	100.0%
売上原価	1,393	49.0%	+45.8%	955	50.0%
売上総利益	1,447	51.0%	+51.7%	954	50.0%
販売費及び一般管理費	731	25.8%	+47.1%	497	26.1%
営業利益	715	25.2%	+56.8%	456	23.9%
営業外収益	2	0.1%	+235%	0	0.0%
営業外費用	1	0.0%	△94.1%	17	0.9%
経常利益	717	25.2%	+63.0%	440	23.0%
当期純利益	489	17.2%	+64.4%	297	15.6%

© 2026 LiNKX, Inc.

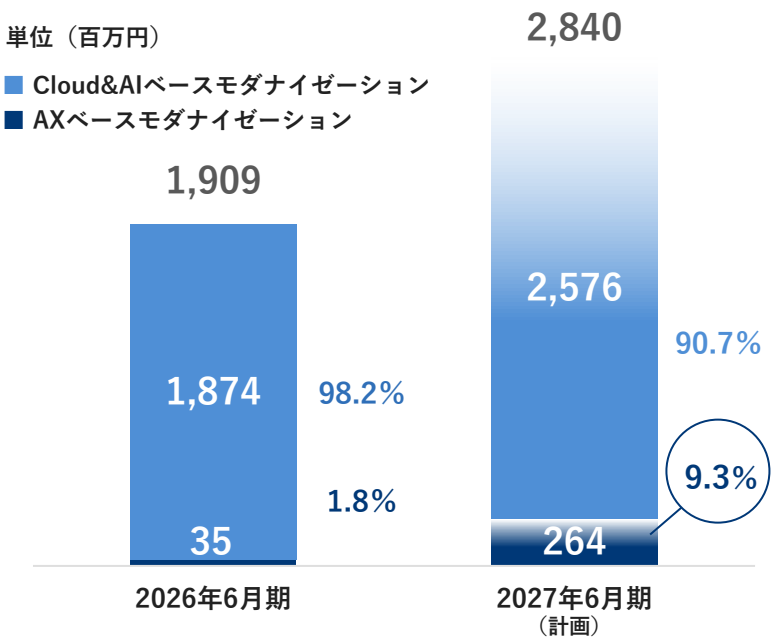
FY2026 タイプ別売上高予想（2027年6月期）

・自社ソリューションと保守運用の拡大が継続し、ストック型収入の売上高比率が増加する見込み
・「AXcelerator」の本格展開によって、AXベースモダナイゼーションが大きく伸長する見込み

収入タイプ別 売上高



モダナイゼーションタイプ別 売上高



© 2026 LiNKX, Inc.

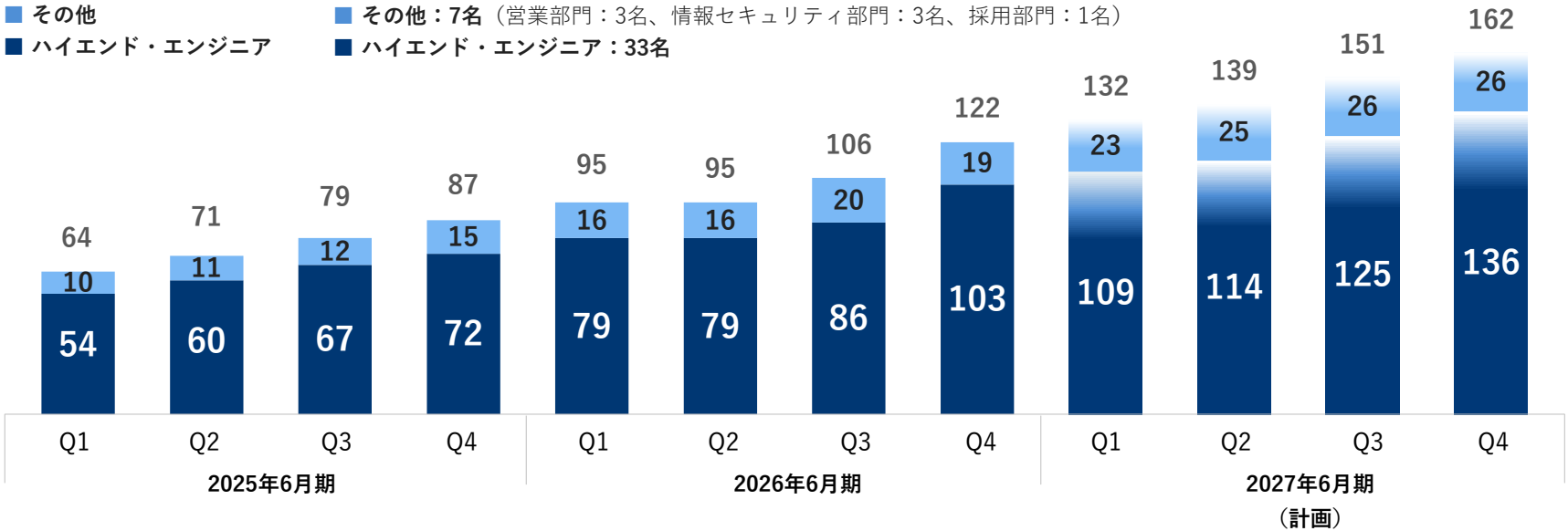
FY2026 通期人員計画（2027年6月期）

・2027年6月期は、33名のハイエンド・エンジニアの増員を計画
・ハイエンド・エンジニアの退職率※は、前期8.0%と同程度の8.7%を見込む

社員数の推移

単位（名）
■ その他
■ ハイエンド・エンジニア

増加人員数の内訳
■ その他：7名（営業部門：3名、情報セキュリティ部門：3名、採用部門：1名）
■ ハイエンド・エンジニア：33名



※退職率＝期中のハイエンド・エンジニア退職者数 ÷（期首時点のハイエンド・エンジニア数＋期中入社のハイエンド・エンジニア数）

© 2026 LiNKX, Inc.

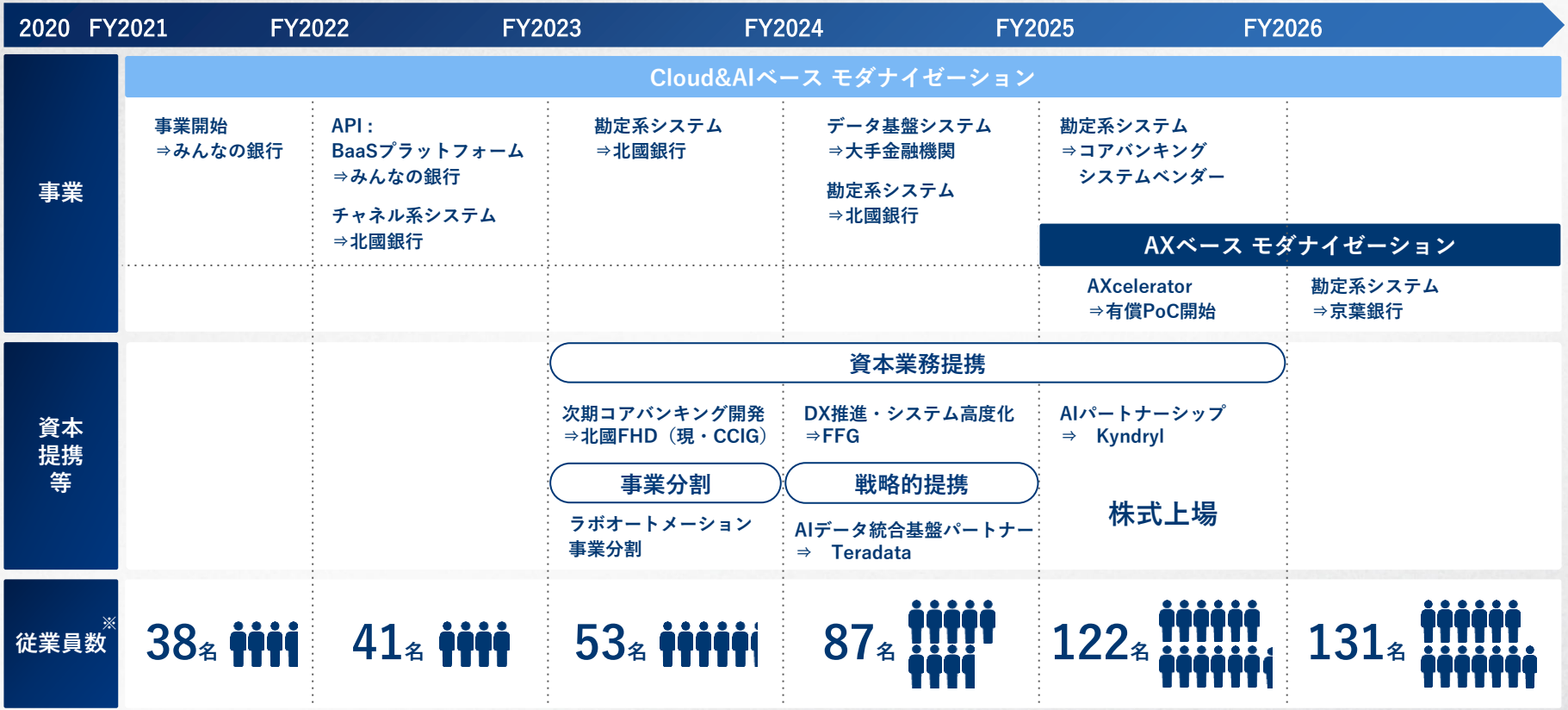
会社概要

社名	LiNKX株式会社（LiNKX, Inc.）
本社所在地	東京都港区赤坂一丁目12番32号 アーク森ビル32階
設立日	2020年7月15日
代表取締役社長	オサムニア モハメッド
資本金（剰余金含む）	12億285万円（2026年10月末時点）
事業内容	システムモダナイゼーション事業



© 2026 LiNKX, Inc.

沿革



※従業員数は各期末時点のものであり、進行期においては直近の四半期末時点のもの

© 2026 LiNKX, Inc.

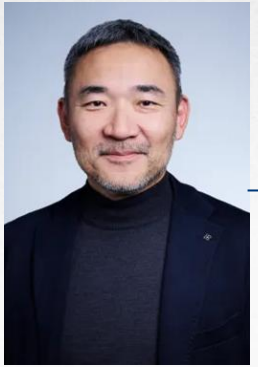
マネジメントメンバー



共同創業者
代表取締役社長 CEO
オサムニア モハメッド

総合研究大学院大学
複合科学研究科 博士課程修了

テクノロジースタートアップで事業の立ち上げ等に従事後、2019年からプログレス・テクノロジーズでDX部門の責任者として当社の前身となる事業を立ち上げ、2020年に同事業をフル・カーブアウトして、当社を共同創業。



共同創業者
代表取締役会長
小西　享

明治大学卒業

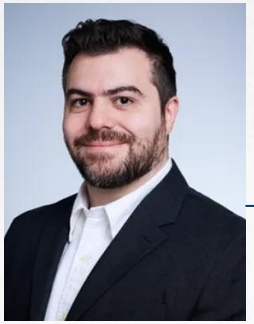
大手新聞社を経て、プログレス・テクノロジーズを共同創業。同社と大手投資ファンドとの戦略的資本提携を手掛ける。それを機に、成長性の高いDX領域に注力するため、当社前身となる事業をフル・カーブアウトし、当社を共同創業。



共同創業者
取締役
小西　祐一

早稲田大学大学院
ファイナンス研究科修了

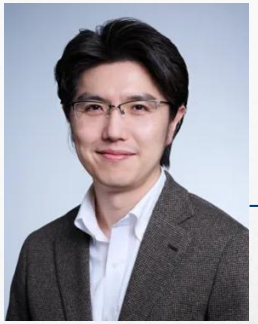
ITベンチャーでの株式上場を経験後、プログレス・テクノロジーズを創業。同社と大手投資ファンドとの戦略的資本提携を実行する。それを機に、成長性の高いDX領域に注力するため、当社前身となる事業をフル・カーブアウトし、当社を共同創業。



共同創業者
CTO
ベイレリャン アンソニー

慶應義塾大学
理工学研究科 修士課程修了

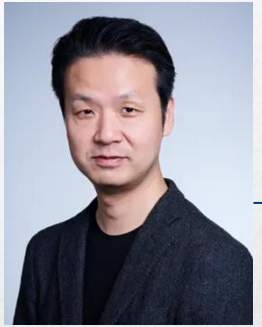
FinTechスタートアップやメガベンチャー等でソフトウェアエンジニアリング業務に従事後、当社を共同創業。



執行役員COO
デジタル部長
中尾　公一

カリフォルニア大学
デービス校卒業

国内大手生命保険会社のIT子会社とクラウドシステム開発を専業とするスタートアップを経て当社へ参画。



執行役員CFO
コーポレート部長
小林　正典

慶應義塾大学

大手経営コンサルティングファームやテクノロジースタートアップのCOO・CFOを経て当社へ参画。

© 2026 LiNKX, Inc.

世界中から多様な人材が集まったエンジニアリング・カンパニー



社員

約80%が
エンジニア

エンジニア

50%超が
グローバル人材※1

世界

25の国と地域からトップレベルの
クラウドネイティブエンジニア※2が集結

社員に関するデータは、2026年9月30日時点で集計
※1：日本国籍以外の人材
※2：クラウド活用で得られるメリットを最大限活かすための最適化の技術やアーキテクチャに精通しているエンジニア

© 2026 LiNKX, Inc.

市場トレンド・課題① ー 金融システムの技術変遷と技術課題 ー

時代の劇的な変化に適用する金融システムの進化には、技術難易度の高い課題が山積みとなっており、
AI時代の銀行に向けた課題解決には、高度なテクノロジーが必要

		1960年代に誕生 伝統的な銀行	2000年代に誕生 ネット銀行	2020年代に誕生 デジタルバンク	2030年以降に誕生 AI時代の銀行
APIゲートウェイシステム（外部システム連携）	• オープンAPI標準に準拠 • 大量のデータを処理する性能と高いセキュリティを両立	✕ API連携不可	▲ 一部連携可能	✓ 外部との連携可能	✓ 外部との連携可能
データ基盤システム（統合データ基盤）	• APIを介し、SoRとSoEのデータを一元的に統合 • AIとのリアルタイム連携	▲ データが散在	▲ データが散在	✓ データが統合	✓ データが統合
勘定系システム（銀行基幹システム）	• 業務がスリム化され、システムも大幅にダウンサイズ • クラウドネイティブに実装	✕ オンプレミスのみ	▲ 一部クラウド	✓ 完全クラウド	✓ 完全クラウド
AI活用（AI Agent）	• AI Agentに必要となる高度なAIエンジンと運用体制を保持 • 社内業務もAIで最適化	✕ AI活用不可	✕ AI活用不可	✕ AI活用不可	✓ AI活用可能

© 2026 LiNKX, Inc.

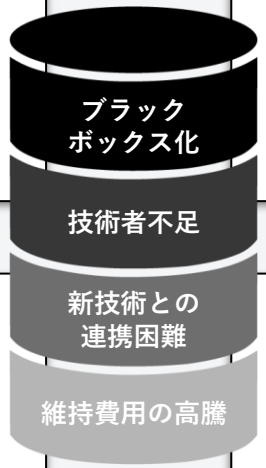
市場トレンド・課題②　ーレガシーシステムが抱える負の資産ー

システムのブラックボックス化

システムが複雑化しており、かつ仕様書が存在せず、
システム変更等の難易度が高い

レガシーシステムの技術者不足

レガシーシステムを保守・運用できる人材が枯渇し、
セキュリティ上のリスクも高まる



新技術との連携・データ利活用が困難

チャネル系システム等への外部連携やシステムの
拡張性がなく、AI活用のデータ利活用も困難

保守・運用コストの高騰

時間の経過とともに保守・運用コストが増大し、
新技術等への攻めのIT投資の足かせとなる

新旧システムが絡み合い、人間ではシステムの影響予測が困難な時代に。
クラウドとAIを駆使できるエンジニアリングがカギとなる。

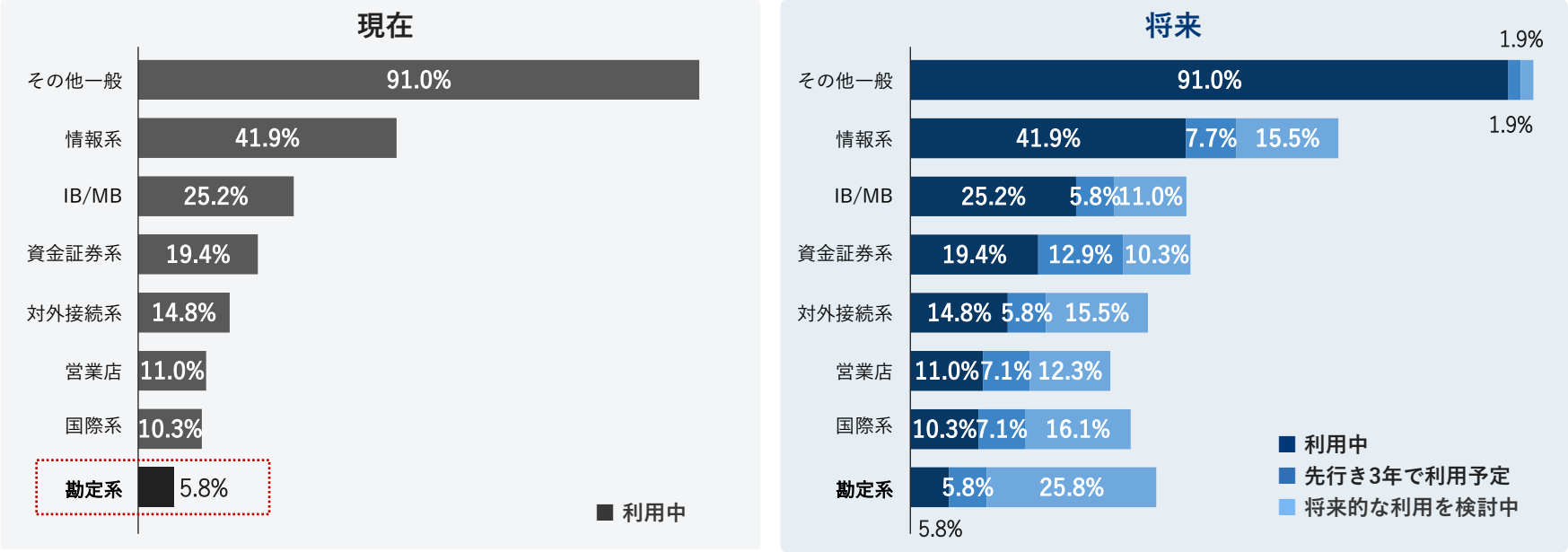
※出所：2018年9月7日　経済産業省「DXレポート ～ITシステム『2025年の崖』克服とDXの本格的な展開～」から当社にて抜粋・要約
（https://www.meti.go.jp/policy/it_policy/dx/20180907_03.pdf）

© 2026 LiNKX, Inc.

市場トレンド・課題③　ー勘定系システムモダナイゼーションの現状ー

国内金融機関において、勘定系システムのクラウド利用は僅か5.8%に留まっており、今後、勘定系システムにおいてクラウドを利用する比率が高まっていくことが見込まれている

金融機関におけるシステム領域別 クラウドの利用状況



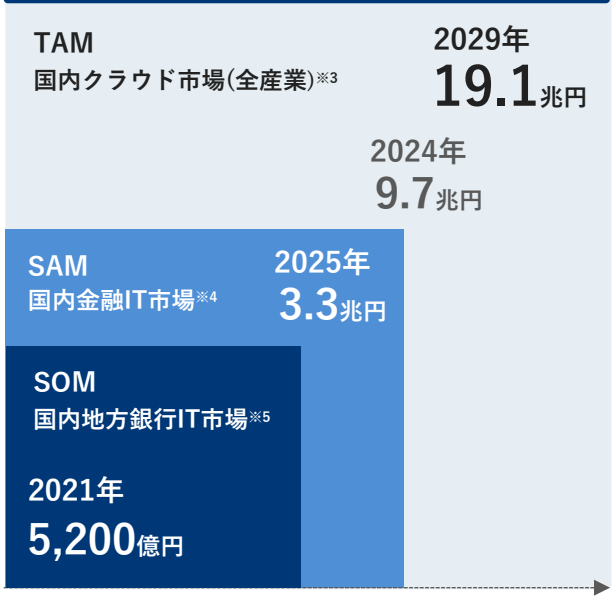
出所：2024年1月 日本銀行「金融機関におけるクラウドサービスの利用状況と利用上の課題について－アンケート調査結果から－」
（https://www.boj.or.jp/research/brp/fsr/data/fsrb240130a.pdf）

© 2026 LiNKX, Inc.

国内市場規模と成長機会（TAM・SAM・SOM）

レガシーシステムのモダン化は、国内全産業の企業が抱える課題であり、国内金融機関におけるIT投資もモダン化を通じて、守りから攻めからへとシフト

市場規模と拡大余地※1



国内金融IT投資のシフト（イメージ）※2



市場のカタリスト

レガシーシステムの
モダン化ニーズ

ミッション・クリティカル・
システムの刷新が急務

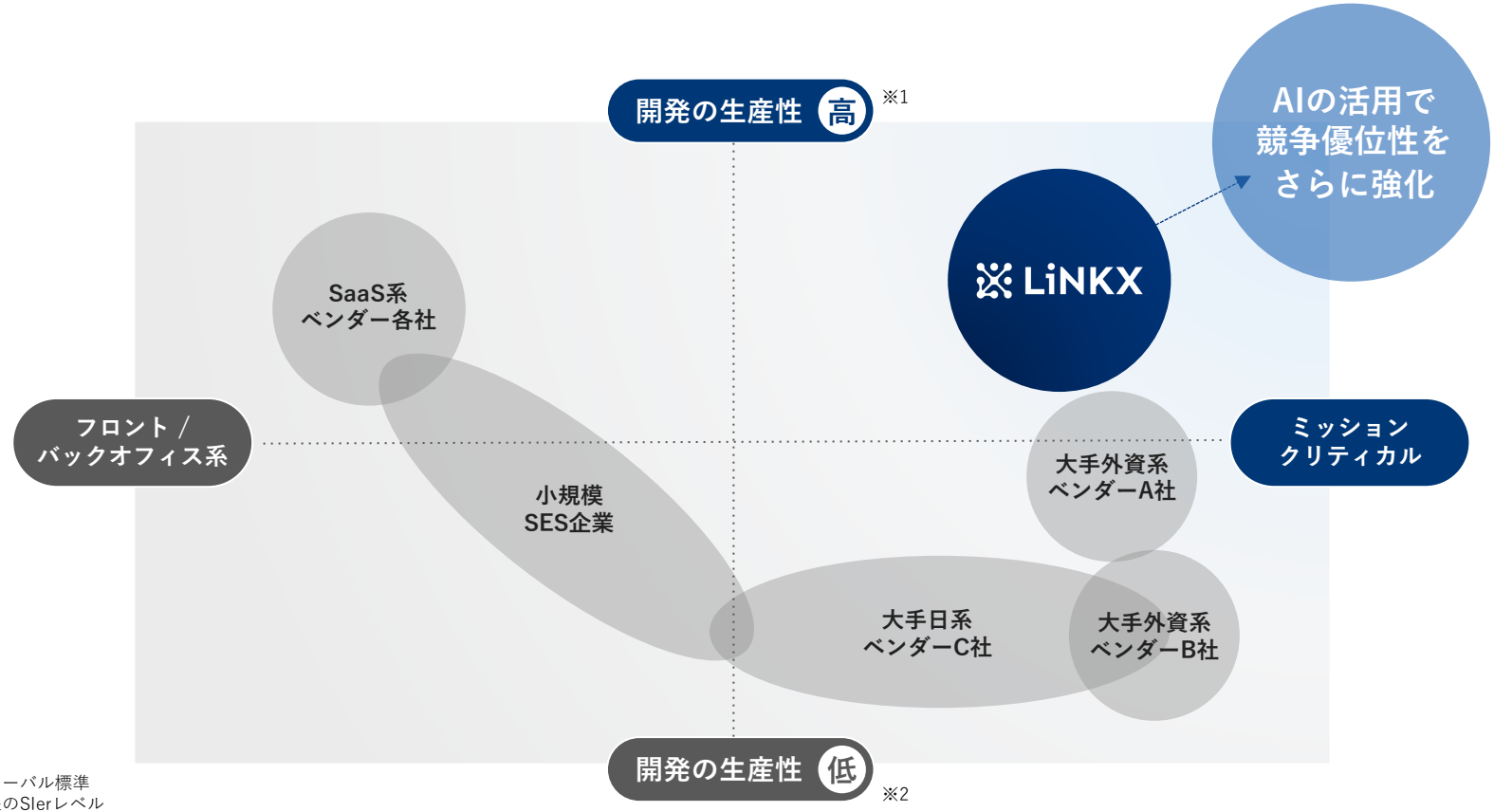
システムモダナイゼーション
の高い難易度

クラウドとAIを駆使できる
エンジニアリングがカギとなる

※1：上記のTAM、SAM及びSOMの各数値は当社が想定する各市場の潜在的な最大規模を意味しており、2026年11月現在で当社が営む事業の客観的な市場規模を示す目的で算出されたものではありません。
※2：上記イラストは国内金融IT投資の投資額のイメージを記載したものであり、実際の投資額の量的な推移を保証するものではありません。
出所　※3：2025年8月18日IDC Japan「国内クラウド市場予測」（https://my.idc.com/getdoc.jsp?containerId=prAP53747625）　※4：2025年1月16日IDC Japan「国内金融IT市場予測」（https://my.idc.com/getdoc.jsp?containerId=prJPJ53081525）　※5：2022年6月金融庁「金融機関のITガバナンス等に関する調査結果レポート」（https://www.fsa.go.jp/news/r3/20220630/it02.pdf）

© 2026 LiNKX, Inc.

LiNKX のユニークなポジショニング

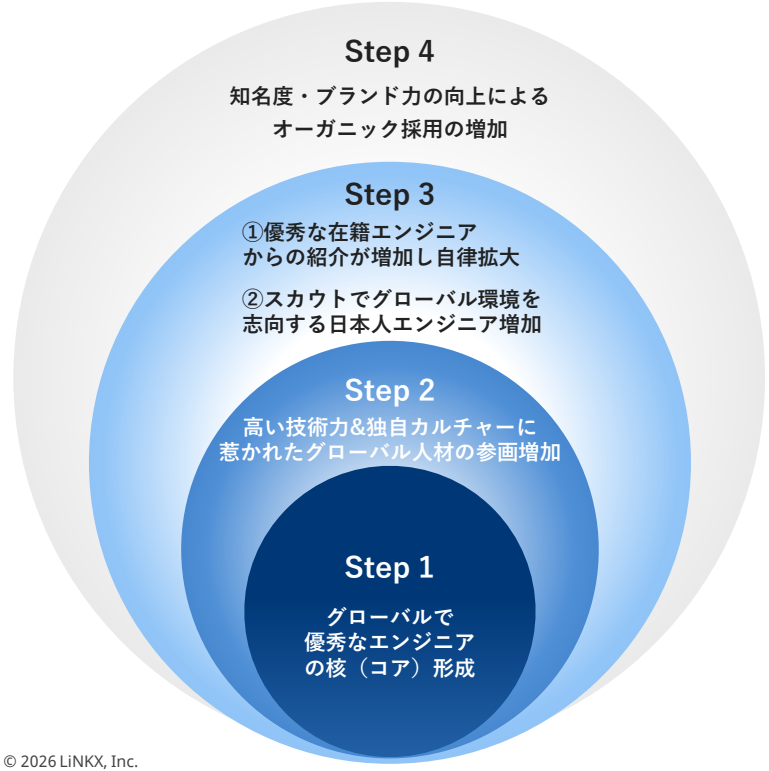


※1：グローバル標準
※2：従来のSIerレベル
グローバル標準、従来のSIerレベルの開発の詳細は60ページを参照

© 2026 LiNKX, Inc.

LiNKX の採用手法とグローバル人材採用

・創業期に優秀なグローバルエンジニアを集めたことが、外資系・エンジニア特化型の人材紹介会社からの採用に寄与
・今後は、ダイレクトリクルーティングやリファラル採用の拡大と、オーガニック採用の増加も見込む



Step 4 **オーガニック採用** ※上場後のイメージ	株式上場や当社事業の拡大等に伴い当社の知名度・ブランド力が向上し、候補者が自発的に当社へ応募
Step 3-① **リファラル**	在籍するエンジニアが友人・知人を紹介（優秀社員が周囲の優秀層を紹介する流れを確立）
Step 3-② **ダイレクト** **リクルーティング**	専門の採用チームを組織化して、優秀な社員と属性の近いグローバル志向のエンジニアに対して、当社から候補者へ直接アプローチ
Step 2 **人材紹介会社**	独自のカルチャーを魅力に感じ、グローバル人材に強い人材紹介会社（外資系・エンジニア特化型）のリクルーターを利用して優秀な人材を確保
Step 1 **創業メンバー**	グローバル経験が豊富なハイエンド・エンジニア中心のメンバーで創業

© 2026 LiNKX, Inc.

優位性①ユニークポジションでの採用

LiNKX に集結するハイエンド・エンジニア

世界最高峰のコンピューターサイエンスやAIの知見を持ち、グローバルスタンダードを熟知したエンジニアが、
日本のミッション・クリティカル・システムを支えるために集結

当社所属のエンジニア

日本人エンジニア



東京大学工学部卒
東京大学大学院工学系研究科
社会基盤学専攻修了



上海交通大学卒 電子・
コンピューターエンジニアリング専攻
東京科学大学大学院工学院修了



京都大学卒
コンピューターサイエンス専攻



University of California, Berkeley卒
コンピューターサイエンス専攻

外国人エンジニア



東京大学大学院
総合文化研究科広域科
博士課程修了



Imperial College London卒
コンピューターサイエンス専攻



東北大学大学院
工学研究科博士課程修了



University of Washington卒
情報システム専攻

エンジニアの志向

- 日本のミッション・クリティカル・システムをモダン化することで日本社会の生産性を高めることに共感
- 国籍や経歴が異なっていても、コードの美しさやパフォーマンスの数値でお互いを評価し合える文化がある
- 自分よりも優れたエンジニアと切磋琢磨することで自身の技術レベルを進化させることができる

当社入社の理由

- **フルスタック・ギーク**
  単一の言語ではなく、アーキテクチャ設計からデプロイまで、モダンな技術スタックを使いこなしたい
- **クロスボーダー・タレント**
  海外での実務経験があり、英語でコミュニケーションができ、日本を拠点に世界レベルの開発に関わりたい
- **エンジニアリング・ドリブン**
  ビジネス要件に妥協しない、クリーンアーキテクチャや拡張性を追求した高度な設計理論を実践したい

© 2026 LiNKX, Inc.

採用したエンジニア組織の維持・成長に向けた取組み

ハイエンド・エンジニアを安定的に採用し、エンジニアリングのパフォーマンスを最大限に発揮するための
カルチャーや働き方、教育・研修等の制度を構築しており、その退職率※1は8.0%に留まっている

2024年6月期
25名

2025年6月期
33名

2026年6月期
40名



カルチャー
- ハイブリッド（日本/外国人）
- ハイパフォーマンス

働き方
- リモートワーク制度
- 独自のエンジニアリング ガイドライン

教育・研修
- シニアエンジニアによるOJT
- スキル向上支援制度

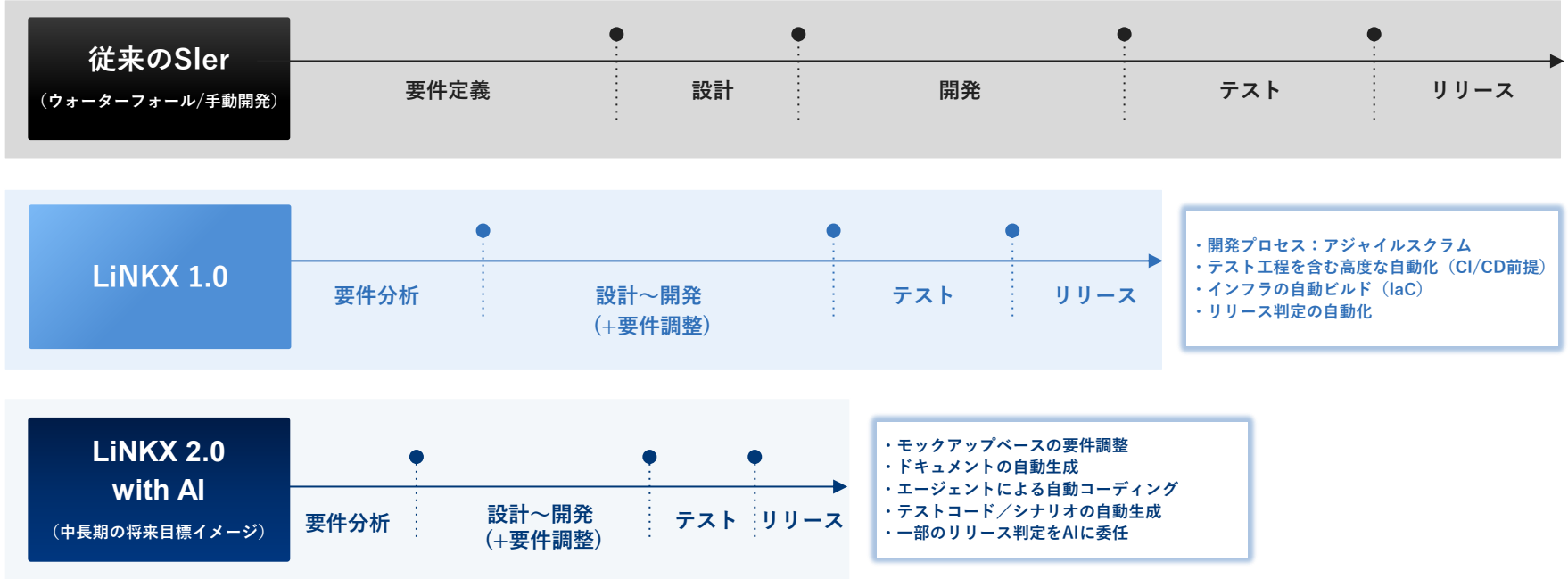
※1：退職率＝期中のハイエンド・エンジニア退職者数 ÷（期首時点のハイエンド・エンジニア数＋期中入社のハイエンド・エンジニア数）
※2：ハイエンド・エンジニアの採用人数

© 2026 LiNKX, Inc.

LiNKX が目指すグローバル標準の開発生産性

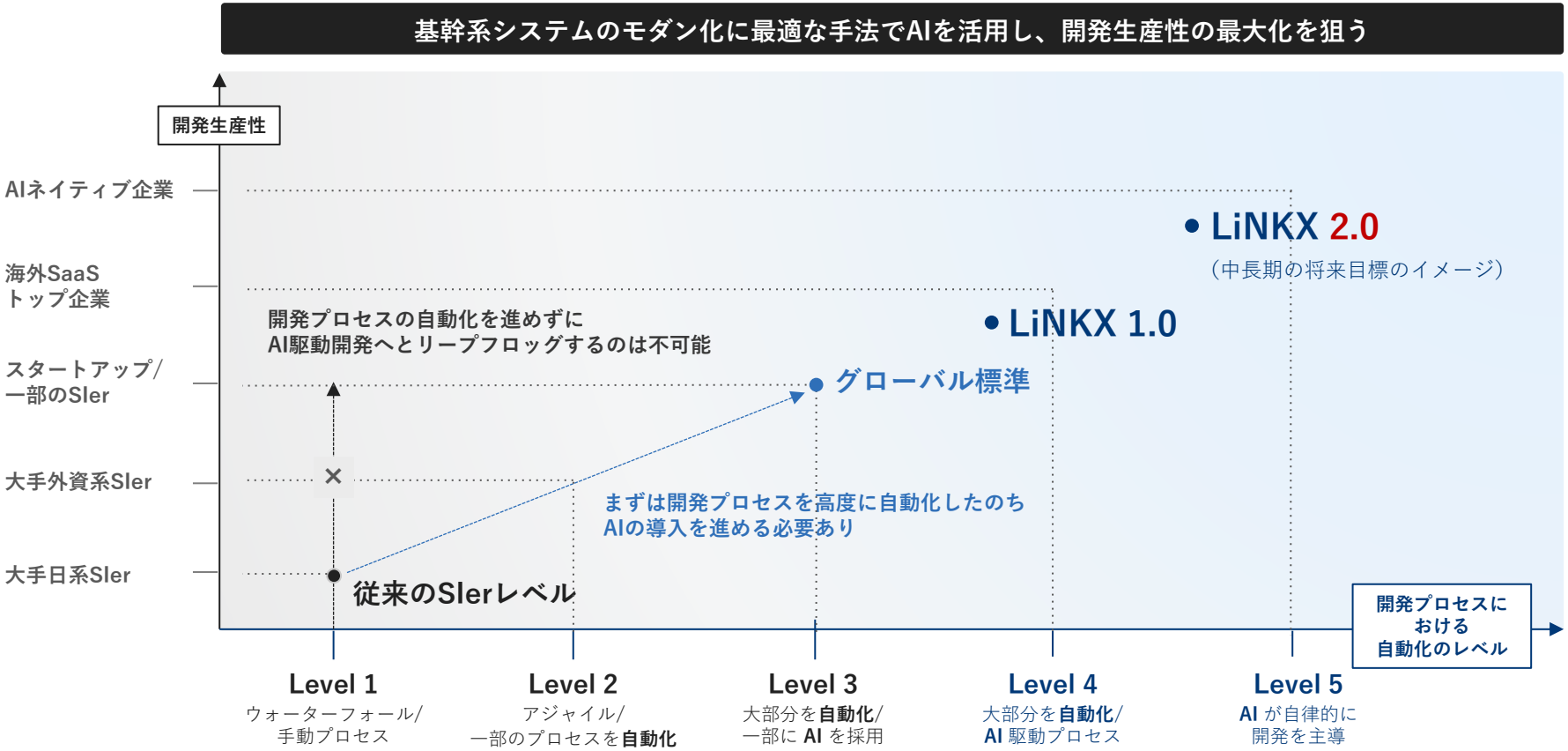
モダンな設計手法、自動化された開発プロセスに加え、AIにより開発生産性をさらに向上

従来のSIer vs. LiNKX： 開発プロセスにおける生産性の違い（開発期間の比較）



© 2026 LiNKX, Inc.

参考：開発生産性のイメージ



© 2026 LiNKX, Inc.

※当社認識に基づく各企業カテゴリーにおける一般例の整理

優位性③金融領域での実績
プロジェクトにおけるAI活用の実績

システムモダナイゼーションのプロジェクトにおいて、AI技術の活用実績を有しており、実開発の中でAI活用の成果を残している



AI活用の事例紹介

北國銀行では現行の勘定系システムの**抜本的なモダン化を推進中**（2027年1月稼働開始予定）

LiNKXの主な役割

- **現行の古いプログラムを新しい開発言語の記述にAIで変換するツールの開発**
- **変換したプログラムの品質をAIが評価・改善する仕組みの開発**
- **重要な機能の再設計・再構築**
- **インフラ基盤のマルチクラウド化**

写真左から「**BIPROGY株式会社**　代表取締役専務執行役員 CSO　葛谷 幸司」、「**株式会社CCIグループ**　代表取締役社長　杖村 修司」、「**LiNKX株式会社**　代表取締役社長 CEO　オサムニア モハメッド」

LiNKX が複数の金融機関と進めているAI活用の取組み例

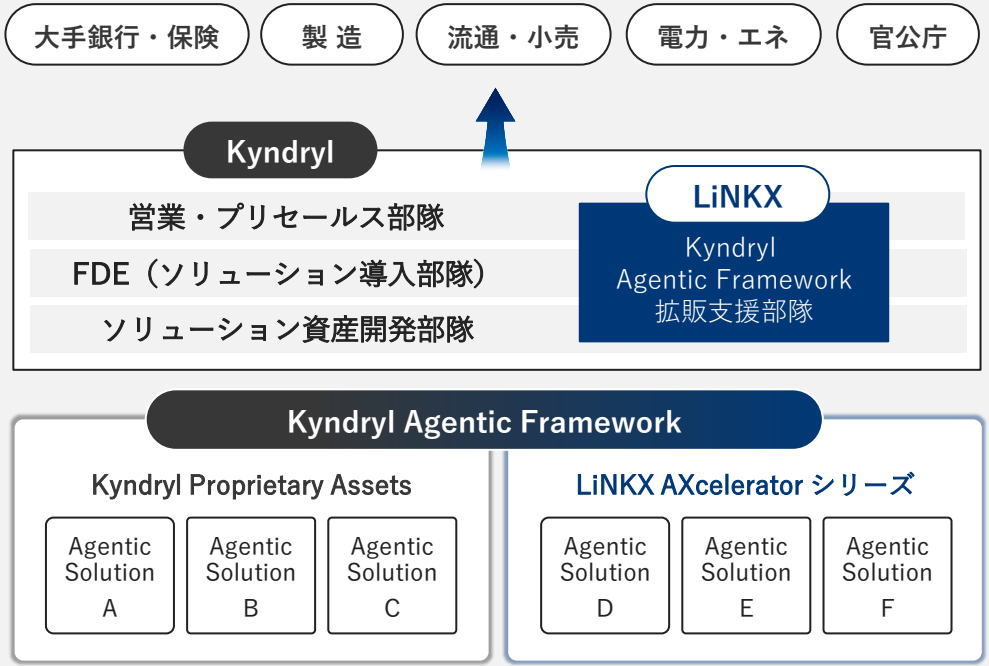
勘定系システムモダナイゼーション	基幹系バッチシステム現行可視化	契約管理システム現行可視化
CCIグループ / 北國銀行	大手地域金融機関	大手外資系生命保険会社
• COBOLで開発された現行の勘定系システムをJavaに変換 • ルールベースで変換したコードに基づき、仕様書作成やテスト工程の効率化を行う際にAIを活用	• 基幹系バッチシステムにおいて、データの加工履歴を生成AIを用いて追跡・抽出し、かつ仕様書として出力できるか否かを検証 • 将来的に同システムを再構築する際、大幅な工数削減に寄与するかを検証	• COBOLで開発された複数の契約管理システムの保守性向上 • 将来的な本格モダン化に備えて、AIが現行システムの機能要件や構造をどこまで可視化できるかを検証

© 2026 LiNKX, Inc.

キンドリルジャパンとのAIパートナーシップ加速に向けた取組み

AIパートナーシップを通じて、両社の事業拡大を加速するための取組みを推進中

AIパートナーシップの全体像



パートナーシップ加速の取組み

既存・新規顧客へのAI導入支援

AIを軸にアプリケーションのモダン化事業を拡大

AI関連事業拡大に向けた体制構築

Kyndrylのソリューション拡販を加速すべく、LiNKXからプリセールス・FDE・ソリューション開発等の人員を数十名規模でアサイン

AI関連ソリューションの整備・拡充

- Kyndryl Agentic Frameworkの資産を整備・拡充するなかで、すでに金融機関を中心に導入実績のあるLiNKXのAI関連ソリューションを組込み
- 両社の共同プロジェクトを通じて生み出されるノウハウのアセット化を推進

© 2026 LiNKX, Inc.

LiNKXのストロングポジション　ー難易度の高いエンジニアリングー

LiNKX

外部システム

- 全銀システム Zengin System
- 日銀ネット BoJ NW
- ANSER
- 統合ATM ATM Network
- CAFIS

行内ID管理ポータル（認証認可）ID Management Portal

基幹システム

03 勘定系システム（コアバンキングシステム）

- アーキテクチャの検討
- 重要機能（センターカット等）開発
- 単一機能のモジュール化
- COBOLからJavaへの変換

AX ベース モダナイゼーション

AXceleratorを活用した開発工程

現行分析/影響調査/設計書生成/
要件再定義 /開発/テスト/保守等

02 データ基盤システム（統合データ基盤）

データ基盤の整備・統合

- データ分析システム等の導入
- AIによるデータの活用

APIゲートウェイ

01 APIゲートウェイシステム（外部システム連携）

- 外部システム接続機能
- 認証・認可機能
- 接続管理機能

デジタルチャネル

00 チャネル系システム

- インターネットバンキング
- 決済アプリ
- お客さま窓口機能

エンドユーザー

- 個人ユーザー
- 法人ユーザー
- 行内ユーザー

戦略的エントリーポイント

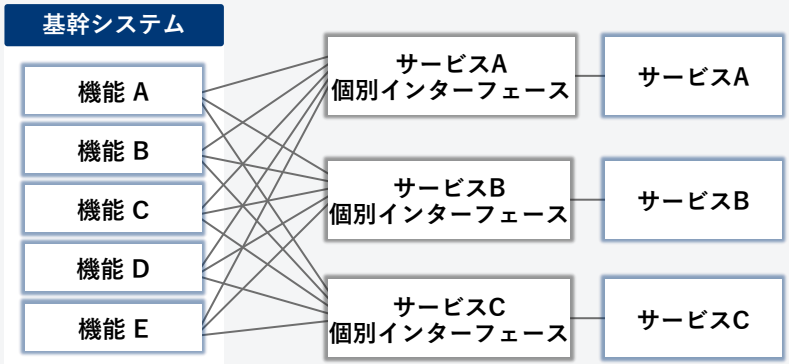
戦略的重点領域

© 2026 LiNKX, Inc.

01 APIゲートウェイシステムのモダナイゼーション

基幹システムとデジタルチャネルとの接続（例）

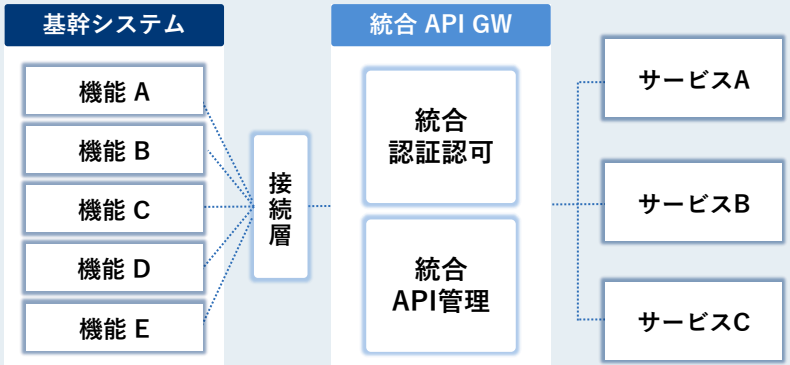
レガシーシステムでよく見られる状態



- 古い基幹システムは、外部のサービスとスムーズかつ安全に接続するための共通的なインターフェースを備えていない
- 新しいサービスを接続するたび、同様のインターフェースを個別に開発（車輪の再開発）する必要あり

API GW基盤によるシステム接続方式の共通化

LiNKXによるAPI GW基盤高度化のアプローチ



- 各サービスと基幹システムとの接続口を一カ所に統合
- 同様のインターフェースを個別開発（車輪の再開発）することを回避し、サービス接続にかかる期間・費用を圧縮
- 認証認可方式も共通化し、フィッシングやアカウントの乗っ取り等に対するセキュリティを高度化

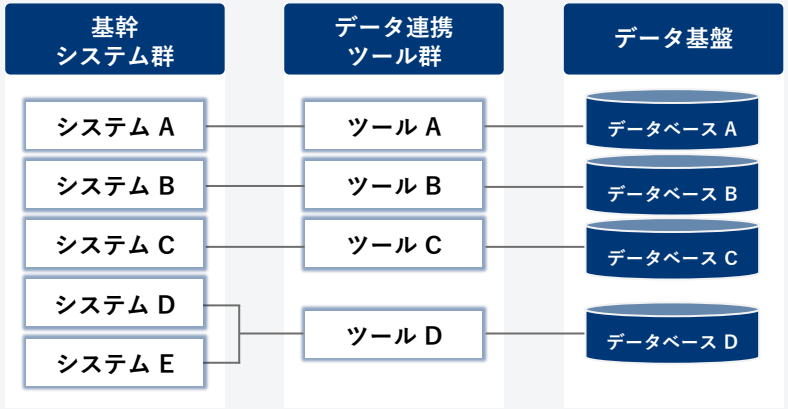


© 2026 LiNKX, Inc.

02 データ基盤システムのモダナイゼーション

レガシーシステムにおけるデータ基盤の構造（例）

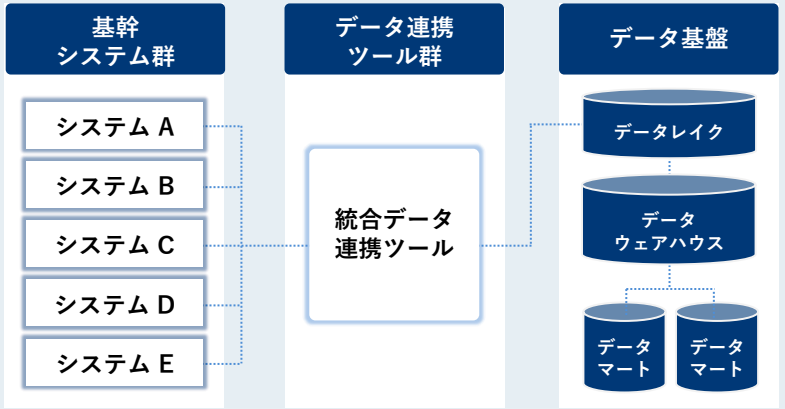
各システムが別々のツールに接続



- データ取得元のシステムは、各々のデータ連携ツールを介してデータ分析基盤にデータを送信
- 個別のデータ連携ツールのライセンス料がかかる状況
- クラウドDBへのデータ連携部分にはオンプレミス環境のサーバーが残る状況

モダンシステムにおけるデータ基盤の構造

統合データ連携ツールにより接続が一本化



- データ取得元のシステムとデータ基盤とを結ぶ、標準的な統合データ連携ツールをクラウド上に構築
- データ連携ツールにかかる高額なライセンス料を削減
- オンプレミス環境のデータ連携用サーバーも同一ツールに一本化



© 2026 LiNKX, Inc.

03 勘定系システムのモダナイゼーション

具体的な支援内容	レガシー勘定系システム（例）	モダン勘定系システム
目指すべきアーキテクチャの再設計 **ランニングコストの削減・新商品開発の期間短縮など、モダナイズによって狙う成果に必要となるアーキテクチャ設計**	• モノリシック→**密結合のため拡張性が低い設計** • 個別に外部システムと接続 **→接続が複雑で不安定** • データベースが分断されており、データ分析は手動で行う→**AI活用が困難**	• マイクロサービス→**疎結合で拡張性が高い設計** • 標準化されたAPIによって外部システムと接続 **→接続が容易で安全** • データベースが統合・整備されており、分析は自動で行う→ **AI活用可能**
システム全般共通機能、重要かつ複雑な機能を先進的な設計・開発手法で再構築 **厳しい性能要件が求められる機能を先進的な設計・開発手法で新たに再構築**	• 1960年代の古いプログラミング言語COBOLで開発されており、**開発・保守運用コストが高い** • オンプレミス環境にシステムを構築 • ウォーターフォール型で、主にSIerが開発 **→開発サイクルが長い・ベンダーロックイン**	• Java等の汎用的なプログラミング言語で開発されており、**開発・保守運用が容易** • クラウド環境にシステムを構築**→マルチクラウド対応・高いセキュリティ基準** • アジャイル型で、銀行側が主導して開発 **→開発サイクルが短い**
AIを活用し大量のソースコードを効率的に変換 **ベーシックなソースコードは、ツールによる自動変換・AIによる品質保証を実施**	• AI**活用なし** • コーディングやテストを手動で実施 **→労働集約型でシステムを開発**	• AIを**積極的に活用** • AIワークフローを導入し、システム開発プロセスを自動化することで**システム開発を効率化し、自動テストによって品質が向上**



© 2026 LiNKX, Inc.

競争優位性：優秀なハイエンド・エンジニア

3つの要素を持つハイエンド・エンジニアが当社競争力の源泉である

Cloud＆AIベース Modernization

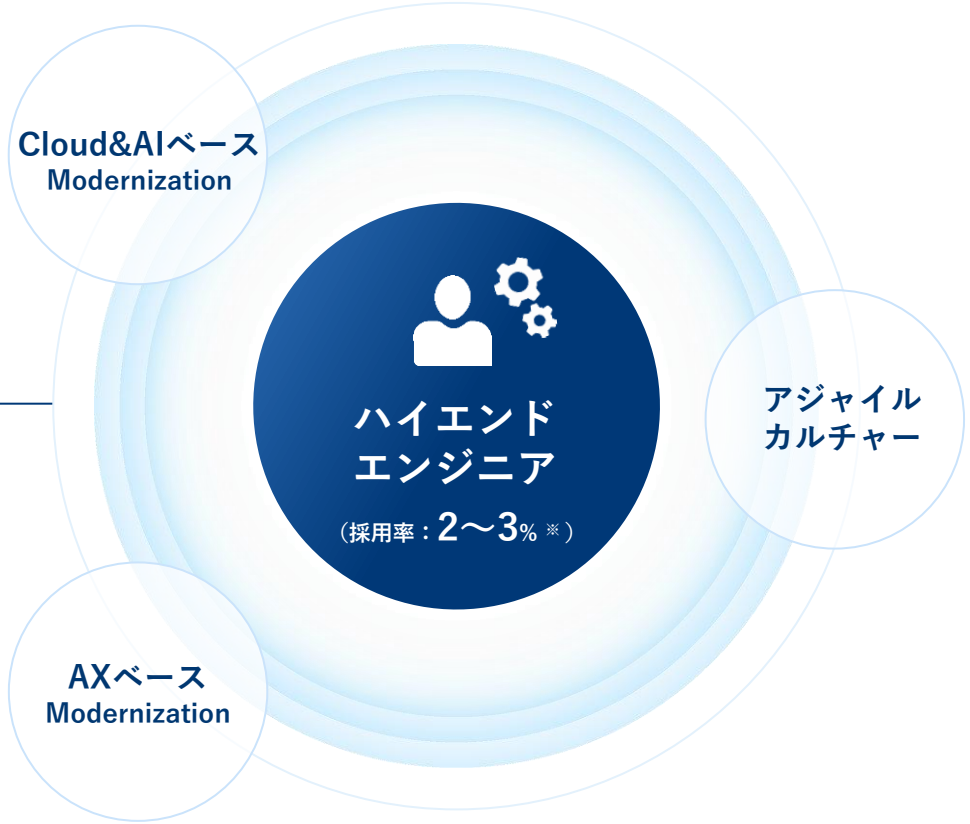
- クラウドネイティブ
- 世界標準の設計・実装手法
- 最先端のセキュリティ基準
- 最新AI技術の活用

AXベース Modernization

- AXceleratorの利用
- 設計書・AST等の生成
- ソースコードの自動変換
- テストプロセスの自動化

アジャイルカルチャー

- 顧客との共同開発体制
- 迅速なリリースを可能とするアジャイル開発手法

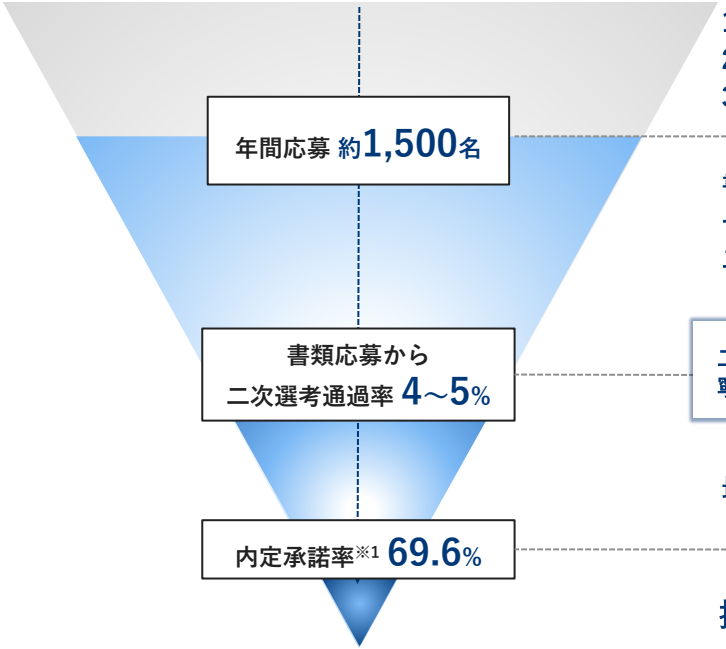


※年間の全応募者数のうち、内定を承諾した人数の割合（2026年6月期実績）

© 2026 LiNKX, Inc.

優秀なハイエンド・エンジニアを獲得する仕組み

母集団形成として人材紹介会社・ダイレクトリクルーティング・リファラルを組み合わせ、
かつ厳正なる書類審査やコーディングテスト等により、優秀なエンジニアを採用する仕組みを構築



1. 人材紹介会社：外資系エージェント・エンジニア特化型エージェント
2. ダイレクトリクルーティング：外資系ビジネスSNS・エンジニア求人サイト
3. 社員リファラル：積極的な社員紹介を促すため、紹介報酬100万円を設定

書類審査：優秀なスキルセットを持つエンジニアを厳選
一次面接：現場エンジニアによるカルチャーフィットの見極め
二次面接：ライブコーディングによるエンジニアリング力の見極め

二次面接では、シニアエンジニアが約90分間のコーディングテストを実施し、その場で、丁寧なフィードバックを行い、候補者も当社エンジニアリングのレベルの高さを実感

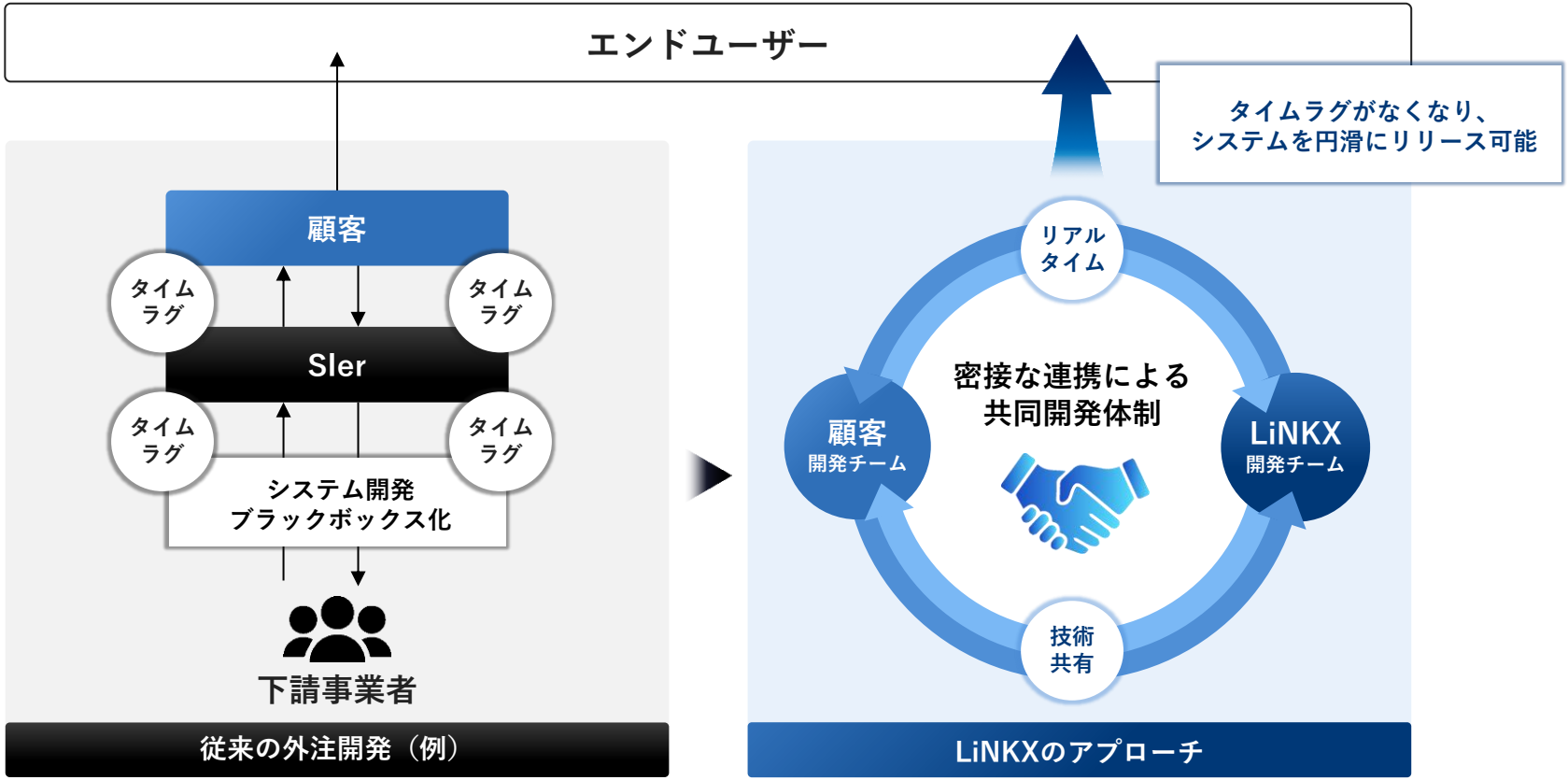
最終面接・オファー面談：当社ミッションと役割・期待値の説明、丁寧なフォローアップ

採用率※2 2～3%

2026年6月期の実績に基づいて計算
※1：内定通知を出した候補者のうち、入社を承諾した人数の割合
※2：年間の全応募者数のうち、内定を承諾した人数の割合

© 2026 LiNKX, Inc.

競争優位性 ーアジャイルカルチャー（ワンチームモデル）ー



© 2026 LiNKX, Inc.

主要なリスクと対応策

項目	発生可能性	影響度	主要なリスク	リスク対応策
特定取引先への依存	高	中	当社の売上高について、取引額上位3社の合計販売比率（2026年6月期における売上高に占める割合）は売上高全体の76.2%となっている。 2026年6月期においては、株式会社北國銀行との取引金額が売上高全体の53.2%を占めており、特定の取引先への依存度が高い状態にある。 特定の取引先における経営方針や業績の変化等によって、契約が想定外に短期間で終了した場合や取引先の意向により規模縮小などの契約変更を余儀なくされた場合に、当社の財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性がある。	特定の取引先が円滑なプロジェクト運営を行えるよう当社エンジニアリソースを適切に提供しており、中長期的に安定した取引関係を構築するための対応を行っている。 特定取引先の経営陣との定期的な会議やプロジェクトの進捗報告や意思決定に関する重要な会議体を設定し、今後のプロジェクトの方針や計画等をいち早く把握する運営を行っている。 特定の取引先への依存による業績に対する影響を緩和するため、営業体制を強化し、積極的な営業活動による顧客基盤の拡大に努めている。
特定領域への依存	高	中	当社の売上高について、金融領域におけるプロジェクトの合計販売比率は、売上高全体の90.0%となっている。また、2026年6月期においては金融機関向けの取引金額が売上高全体の69.2%を占めており、金融領域への依存度が高い状態にある。 当該特定領域における規制強化や経営方針の変更、業績の悪化等によって、金融領域におけるニーズが大幅に減退した場合には、当社の財政状態および経営成績に影響を及ぼす可能性がある。	金融領域に注力して事業を拡大している一方、フロー型収入のシステム開発支援だけではなく、ストック型収入の運用・保守や自社プロダクトの開発等、収益基盤の拡大に努めている。
人件費の上昇	高	中	昨今の物価上昇等によって、日本経済全体として賃上げの潮流が継続しており、特にエンジニア人材の獲得競争激化によって人件費の上昇が継続するものと認識している。 当社の売上高を支える開発の多くは人材によって成立しており、売上原価の大部分が人件費となっているため、人件費の上昇は、当社の収益性に大きな影響を与える。急激な人件費の上昇を、売上高の拡大で充足できない等の事態が生じた場合、当社の収益性に影響を及ぼす可能性がある。	優秀なエンジニアを確保するため、既存従業員への定期的な昇給、または新規採用のため好条件での人材獲得を行っている。また、付加価値の高いプロジェクトを受注することで月額平均単価の向上、人件費に依存しない自社プロダクトの開発等によって、人件費上昇の影響を軽減することに努めている。

© 2026 LiNKX, Inc.

用語集①

用語	説明
ミッション・クリティカル・システム	社会インフラを支える重要なシステムのこと。24時間365日稼働し続けることが求められる金融機関の基幹システム等がある。障害発生時の影響が大きいため、高い信頼性や可用性が求められる。
システムモダナイゼーション	老朽化したシステム（レガシーシステム）を、最新の技術やビジネス環境に合わせて刷新すること。一般的には、これにより、柔軟性、拡張性、セキュリティの向上、運用コストの削減等が期待できる。
クラウドネイティブ	クラウド活用で得られるメリットを最大限活かすための最適化の技術やアーキテクチャのことを指す言葉。また、最初からクラウド上で動作することを前提として設計・開発されたシステムやアプリケーション、またソフトウェア開発のアプローチを指す。
ハイエンド・エンジニア	クラウドネイティブで世界標準のシステム設計が行える技術とAIを高次元で活用できる技術を有するエンジニアとシステムモダナイゼーションのプロジェクトマネジメントやDXコンサルティングを行うプロジェクトマネージャーで、当社独自のコーディングテスト等による厳格な採用選考を通過した顧客プロジェクトにアサインされる稼働対象人員。
FDE（Forward Deployed Engineer）	フォワード・デプロイド・エンジニアの略。顧客のシステム開発現場（最前線）に深く入り込み、AIや自社ソリューションを活用して、課題の発見から設計、実装、運用、改善までを一気通貫で担う新しいエンジニアの職種。
PoC（Proof of Concept / 概念実証）	新しい技術や手法、ソリューションを本格導入する前に、小規模かつ限定的なスコープで試行し、実現可能性や投資対効果、技術的妥当性を検証する検証工程のこと。

© 2026 LiNKX, Inc.

用語集②

用語	説明
アジャイル型開発	システム開発で用いられる開発手法の一種。大きな単位でシステムを区切ることなく、小単位で実装とテストを繰り返して開発を進めていくことが特徴。一般的には、従来のウォーターフォール型開発と比べて開発期間が短縮されるため、アジャイル（素早い）と呼ばれている。
AI技術	人工知能（Artificial Intelligence）を活用し、コンピュータに学習、推論、判断などの人間と同等の知能活動を行わせる技術の総称。当社においては、機械学習や自然言語処理を用いて、複雑化した大規模レガシーシステムのソースコードやドキュメントを自動解析することで、システム構造の可視化、依存関係の特定、及び新システムへの移行設計の精度向上と工数削減を実現する。
エージェンティックAI	AI技術を活用し、人間から与えられた目標に対して、AIがテキスト応答に留まらず、自律的にタスクを分解し、知識ベース及び外部のデータソースと連携しながら、実行・改善までを自律的または協調的に遂行するシステム。
Cloud&AIベース モダナイゼーション	従来のオンプレミスサーバーからパブリック・クラウドサーバー上へシステムを移管し、レガシーなプログラミング言語からモダンな言語への変換等を行うシステムモダナイゼーション。レガシーなシステムとモダンなシステムをAPIゲートウェイシステム等で接続し、新サービス・新機能を実装するシステム開発等も対象となる。 また、AI技術を活用することで、開発やテスト等の工程を自動化し、大幅な生産性と品質の向上を行う。
AXベース モダナイゼーション	従来のCloud＆AIモダナイゼーションに、自社ソリューション「AXcelerator（アクセラレーター）」を活用し、ブラックボックス化されたシステムを可視化する。可視化したシステムの設計書等を生成する。生成した設計書等に基づき、レガシーなプログラミング言語からモダンな言語に自動変換を行うシステムモダナイゼーション。
EOL（End of Life）	メーカーや開発元による製品やソフトウェアのサポート、アップデートの提供が完全に終了すること。EOLを迎えたソフトウェアはバージョンアップまたはソフトウェアの切り替えを行う必要がある。

© 2026 LiNKX, Inc.

用語集③

用語	説明
JUnit	Javaでユニットテスト（単体テスト）を自動実行するための標準的なテスティングフレームワーク。プログラムのメソッドやクラスが仕様通りに動作しているかを自動で検証し、品質の維持やバグの早期発見に役立つ。
Mockito	Javaで単体テスト（ユニットテスト）を書くときに広く使われるモック・フレームワーク。データベース、外部APIなどの重い処理を「モック（代役）」に置き換え、依存関係を切り離すことで、テスト対象のロジックだけを素早く検証できる。
勘定系システム	金融機関において、入出金や資金の決済、口座や融資の残高管理、利息計算等の勘定処理を行うシステムのこと。一般的には、金融機関の業務の中枢を担うため、大規模なシステムでミッション・クリティカル・システムとして位置付けられる。
APIゲートウェイシステム	APIとは、Application Programming Interfaceの略称。APIゲートウェイシステムとは、ソフトウェアやアプリケーション等の一部を外部に向けて公開することにより、第三者が開発したソフトウェアと機能を共有し、自社のシステムと接続できるようにするためのシステムのこと。
データ基盤システム	金融機関における総勘定元帳や各種帳票等の取引に関するデータ等を管理するシステム。AI技術の進展に伴い、AI活用を促進するデータベースの構築を行うことで、より高度な分析やAIワークフローの構築等が可能となる。
BaaS（Banking as a Service）	銀行が保有する預金・決済・為替・融資などの金融機能を、APIを通じて外部の非金融事業者や他行向けにクラウド経由でプラットフォーム提供するビジネス形態または仕組みのこと。

© 2026 LiNKX, Inc.

本資料の取り扱いについて

本資料は、当社の企業情報・決算情報等の提供を目的としており、国内外を問わず、当社の発行する株式その他の有価証券の購入、売却など、投資を勧誘するものではありません。投資に関する最終的な判断は、ご自身の責任とご判断にて行っていただきますようお願いいたします。

本資料には、当社の計画や将来の見通し等に関する記述が含まれています。これらの記述は、当該記述を作成した時点における情報に基づいて作成されたものにすぎません。さらに、こうした記述は、将来の結果を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。実際の結果は環境の変化などにより、将来の見通し等と大きく異なる可能性があることにご留意ください。上記の実際の結果に影響を与える要因としては、国内外の経済情勢や当社の関連する業界動向等が含まれますが、これらに限られるものではありません。

本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。本資料の利用（引用・転載を含む）により生じた損失・損害等について、当社は一切の責任を負いません。

なお、本資料の一切の権利は当社に属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。

© 2026 LiNKX, Inc.



www.linkx.dev